

55歳からの楽しみや生きがいづくりに  
関する意識調査

～アクティブシニアによる活力のあるまちづくりに向けて～

報 告 書

平成23年8月

豊橋市



# 目次

I	調査の概要 .....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象 .....	1
3	調査期間 .....	1
4	調査方法 .....	1
5	回収状況 .....	1
6	調査結果の表示方法 .....	1
7	アンケートの回収状況 .....	2
II	調査結果.....	5
1	現在と5年後のライフスタイルについて .....	5
2	シニア向けの行政サービスについて.....	29
3	回答者属性.....	38
III	調査結果の分析 .....	40
1	分析の方法.....	41
2	世代及びタイプの分析結果 .....	42
3	世代及びタイプの意識差.....	64
IV	今後の課題と展望.....	68

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

豊橋市におけるアクティブシニア（比較的自立し生きがいをもって活発に活動する中高年者）の方々における将来のライフスタイルや生きがいづくりの考えを調査し、活力のある高齢社会のまちづくりに反映させることを目的とします。

## 2 調査対象

豊橋市内在住の 55 歳から 69 歳までの男女 3,000 名

## 3 調査期間

平成 23 年 5 月 13 日から平成 23 年 6 月 15 日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
55 歳から 69 歳の 市民	3,000 通	1,174 通	39.1%

## 6 調査結果の表示方法

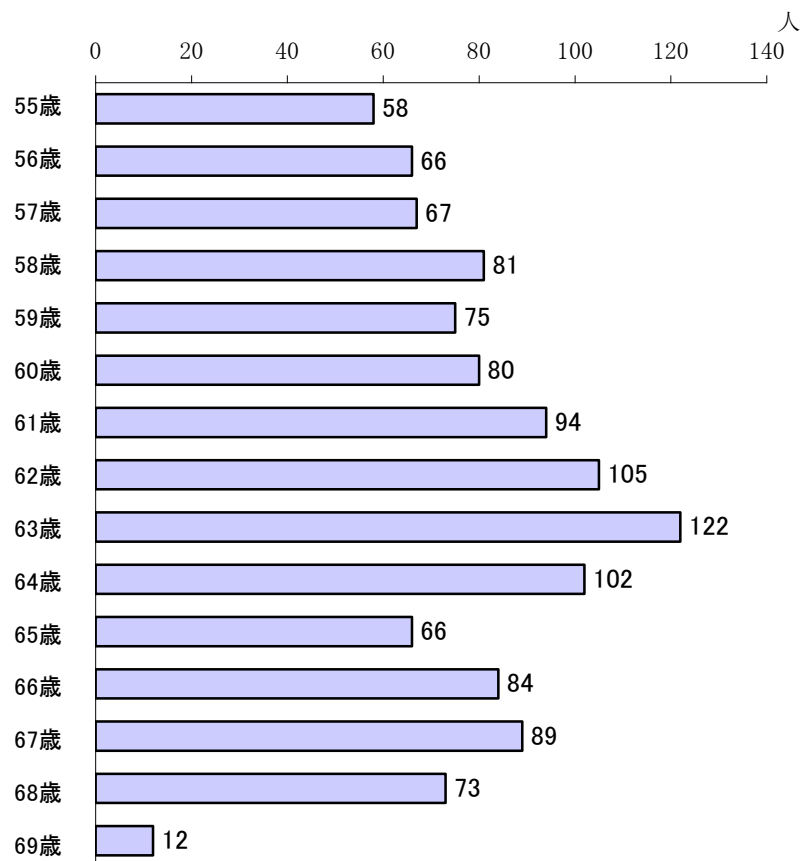
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・集計時に無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

## 7 アンケートの回収状況

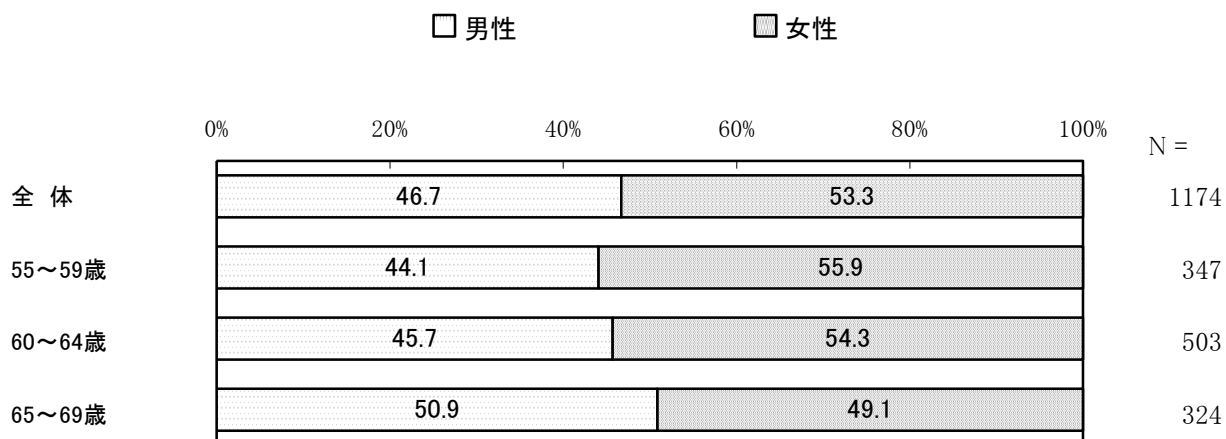
各項目における回答者の構成は以下のとおりである。

### (1) 年齢

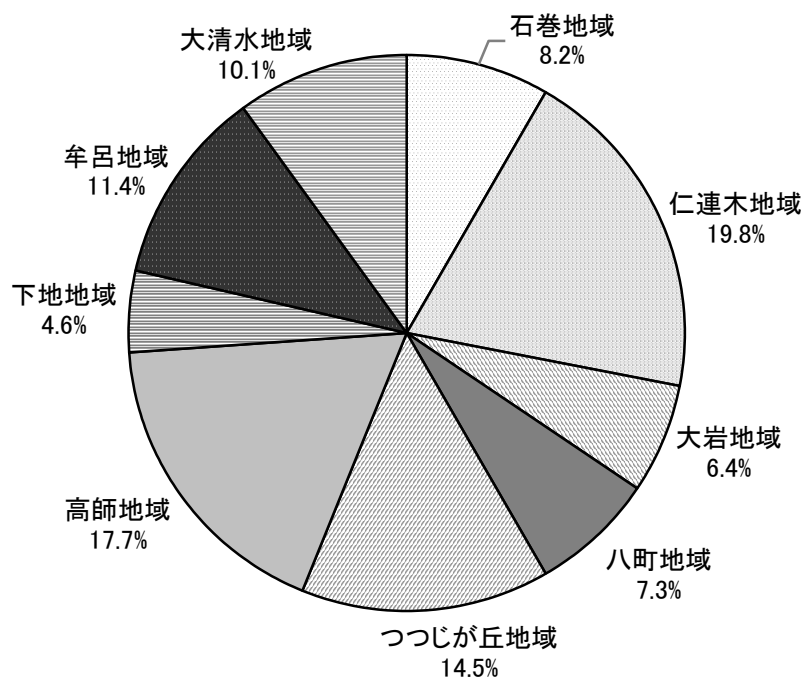
N = 1174



### (2) 性別



(3) 居住地

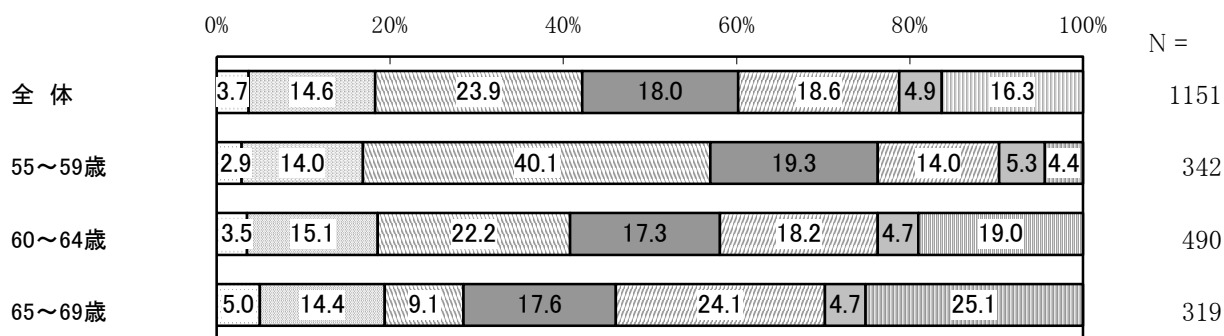


※回答結果を老人福祉センター及び地域福祉センターを中心とした9地域に分類

地域名	左記地域に含まれる居住地（小学校区）					
石巻地域	賀茂	西郷	下条	玉川	嵩山	石巻
仁連木地域	牛川	東田	鷹丘	多米	岩田	豊
大岩地域	二川	谷川	二川南	小沢	細谷	
八町地域	松葉	八町	旭	松山	新川	
つつじが丘地域	向山	岩西	飯村	幸	天伯	つつじが丘
高師地域	福岡	中野	栄	磯辺	芦原	高師
下地地域	前芝	津田	下地	大村		
牟呂地域	吉田方	花田	牟呂	汐田	羽根井	
大清水地域	大崎 富士見	植田 豊南	杉山 高根	老津	大清水	野依

#### (4) 職業

- 農林漁業
- ▨ 会社員・団体職員・公務員など
- ▩ 専業主婦(主夫)
- 仕事はしていない
- 自営業(商・工・サービス業など)
- アルバイト・パート
- その他の仕事



#### (5) 家族構成

家族構成 (同居者)				構成比 (%)		
				小計	計	
単身				7.9	7.9	
夫または妻				34.9	41.1	
親				1.8		
子				3.4		
孫				0.0		
その他				1.0		
夫または妻	親			5.1		
夫または妻	子			26.5		
夫または妻	孫			0.4		
親	子			0.3		
親	その他			0.3		
子	孫			1.5	34.1	
夫または妻	親	子		6.3	15.2	
夫または妻	子	孫		7.6		
夫または妻	子	その他		1.0		
親	子	孫		0.3		
夫または妻	親	子	孫	1.7		
夫または妻	親	子	その他	0.0	1.7	
夫または妻	親	子	孫	その他	0.0	0.0
計				100.0	100.0	

## Ⅱ 調査結果

### 1 現在と5年後のライフスタイルについて

問1. 現在のあなたの普段の「楽しみ」や「生きがい」は、何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- テレビ、ラジオ、仲間と集まったり、おしゃべりすることや親しい友人との交際を選んだ人が多く、比較的身近なところに生きがいを求めている。

(上位回答)

- ・ 「テレビ、ラジオ」(70.1%)
- ・ 「仲間と集まったり、おしゃべりすることや親しい友人との交際」(62.2%)
- ・ 「旅行、ドライブ」(60.3%)

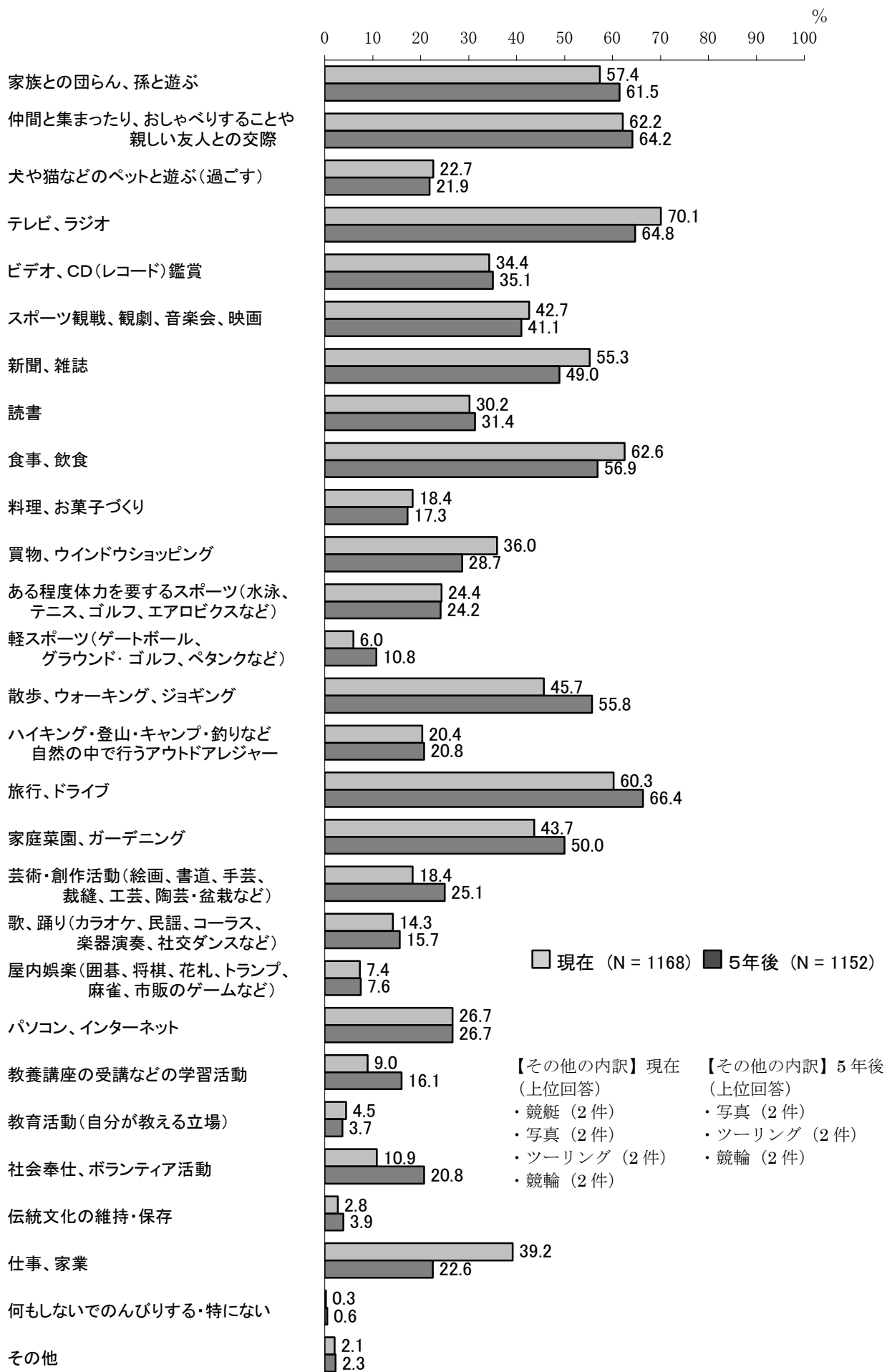
問2. あなたの5年後における「楽しみ」や「生きがい」は何だと思えますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 旅行、ドライブを生きがいとしたい人が多い。

(上位回答)

- ・ 「旅行、ドライブ」(66.4%)
- ・ 「テレビ、ラジオ」(64.8%)
- ・ 「仲間と集まったり、おしゃべりすることや親しい友人との交際」(64.2%)



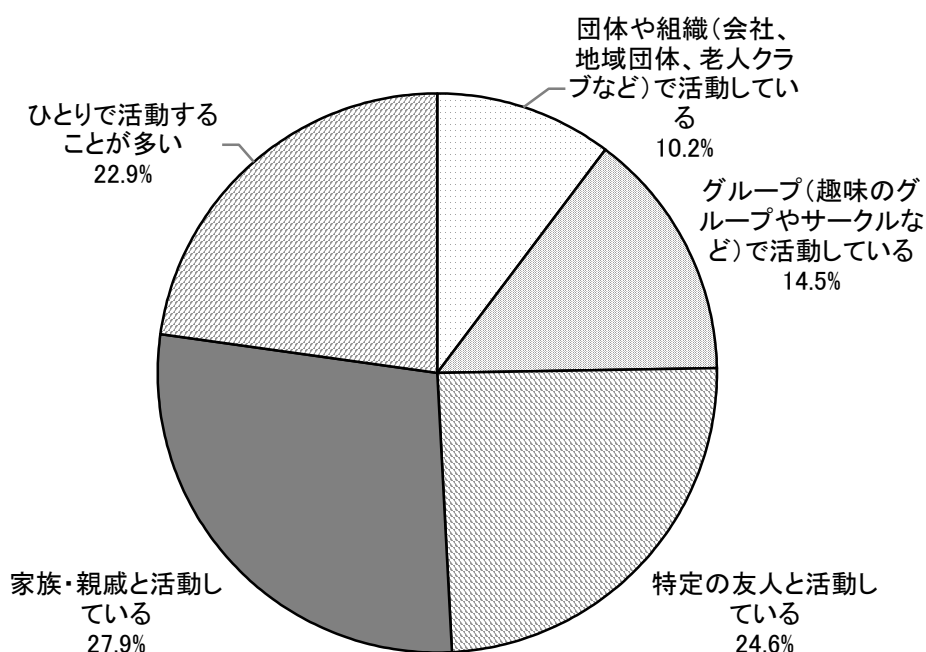


問3. 「問1」でお答えいただいた活動をするとき、あなたは主に誰と活動していますか。当てはまるものに1つ〇をつけてください。

- 団体やグループによる多人数での活動より少人数での活動が多い。
- 特定の友人や家族・親族など、ごく親しい人との活動は全体の約半数を占めている。

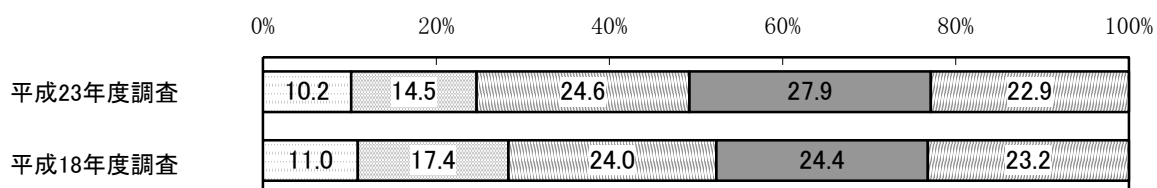
(上位回答)

- ・ 「家族・親戚と活動している」(27.9%)
- ・ 「特定の友人と活動している」(24.6%)
- ・ 「ひとりで活動することが多い」(22.9%)



- 前回調査と比べ、グループの割合は減少しているが、家族・親族との割合はやや増加している。

- 団体や組織(会社、地域団体、老人クラブなど)で活動している
- グループ(趣味のグループやサークルなど)で活動している
- 特定の友人と活動している
- 家族・親戚と活動している
- ひとりで活動することが多い

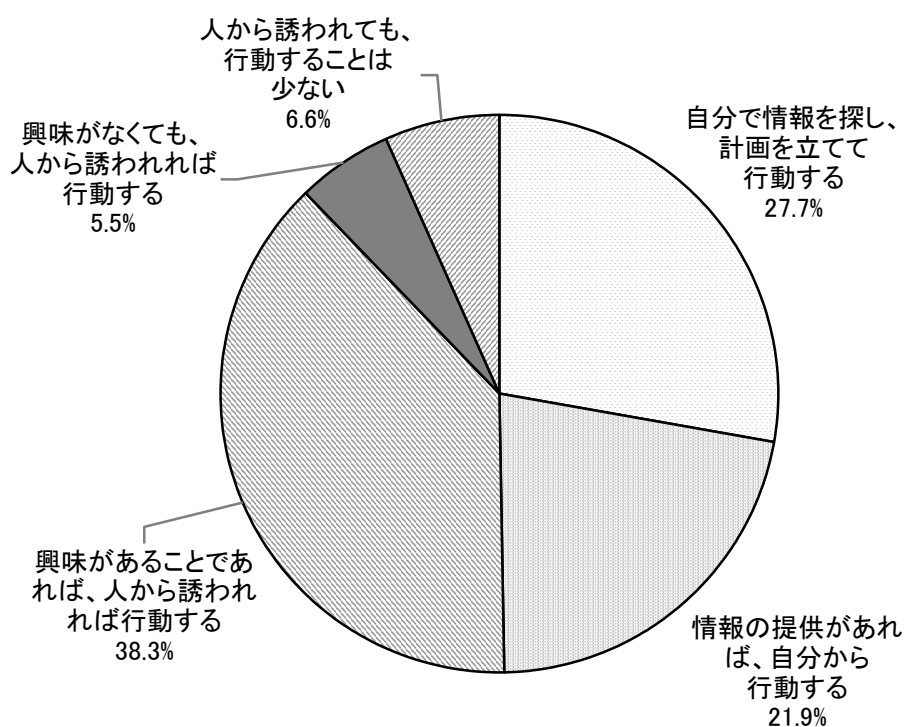


問4. あなたは普段どのように行動することが多いですか。当てはまるものに1つ○をつけてください。

■ 自分から行動する人が約半数を占めている。

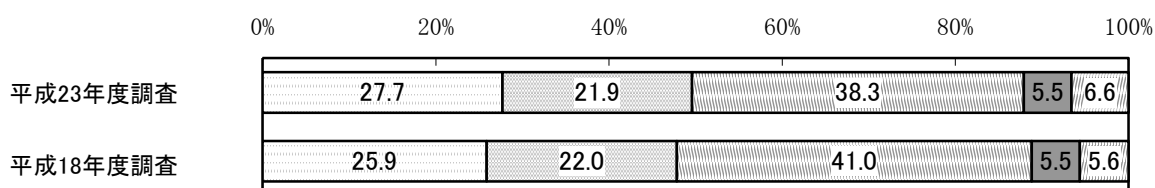
(上位回答)

- ・ 「興味があることであれば、人から誘われれば行動する」 (38.3%)
- ・ 「自分で情報を探し、計画を立てて行動する」 (27.7%)
- ・ 「情報の提供があれば、自分から行動する」 (21.9%)



■ 前回調査と比べ、自分で行動する割合がやや増加しており、積極性が窺える。

- 自分で情報を探し、計画を立てて行動する
- ▨ 情報の提供があれば、自分から行動する
- ▧ 興味があることであれば、人から誘われれば行動する
- 興味がなくとも、人から誘われれば行動する
- ▩ 人から誘われても、行動することは少ない

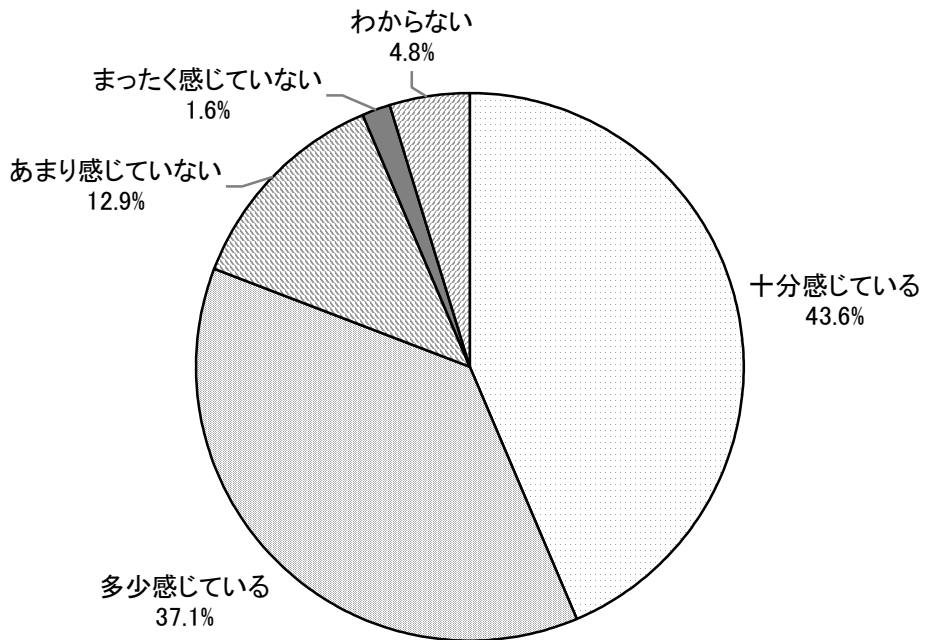


問5. あなたは現在どの程度生きがいを感じていますか。当てはまるものに1つ○をつけてください。

■ 生きがいを感じている人が、8割以上を占めている。

(上位回答)

- ・ 「十分感じている」(43.6%)
- ・ 「多少感じている」(37.1%)
- ・ 「あまり感じていない」(12.9%)

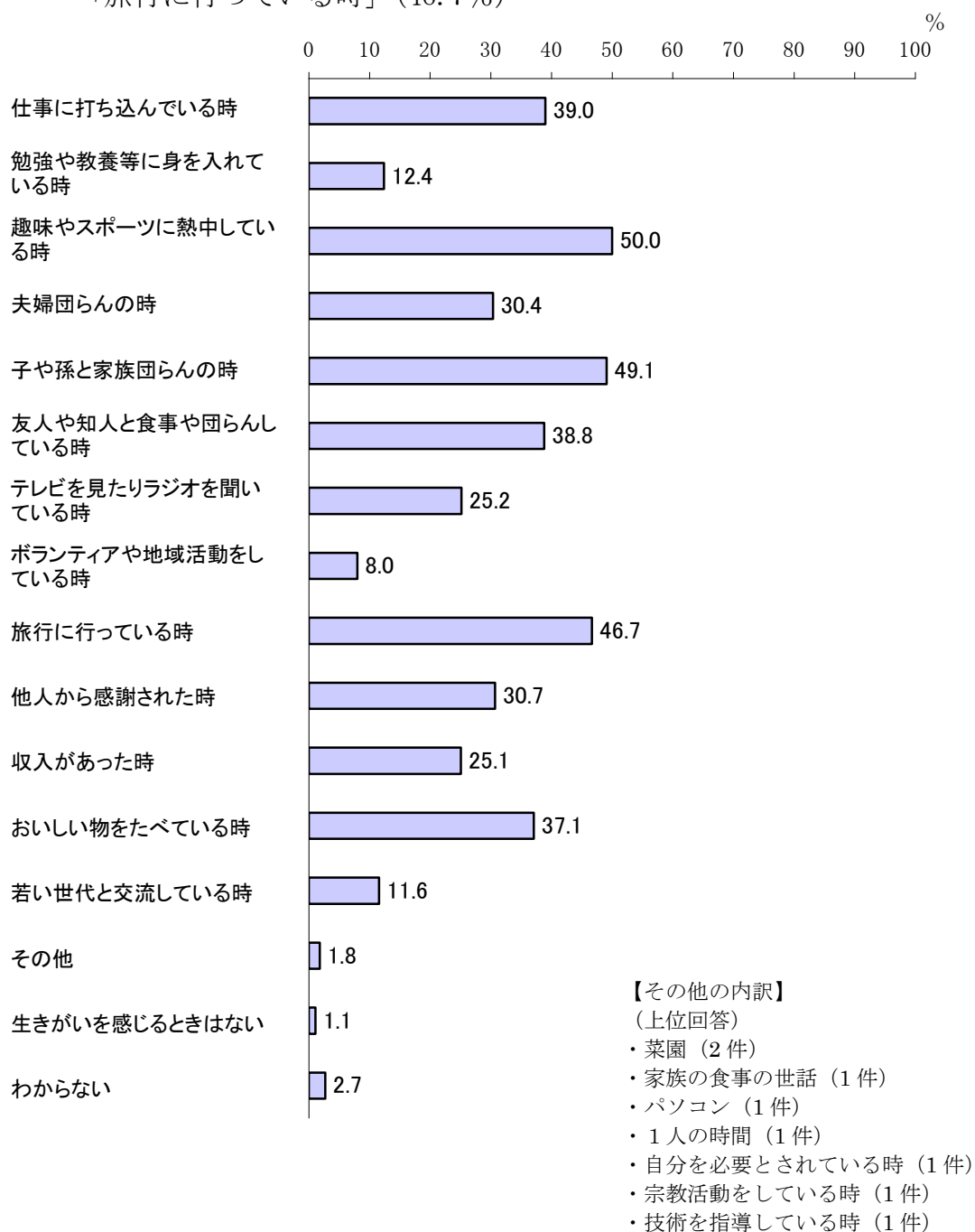


問6. あなたが生きがいを感じるのどのような時ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 趣味やスポーツと回答した人が5割を占めている。
- 家族との団らんや旅行と回答した割合も5割近くを占めている。

(上位回答)

- ・ 「趣味やスポーツに熱中している時」(50.0%)
- ・ 「子や孫と家族団らんの時」(49.1%)
- ・ 「旅行に行っている時」(46.7%)

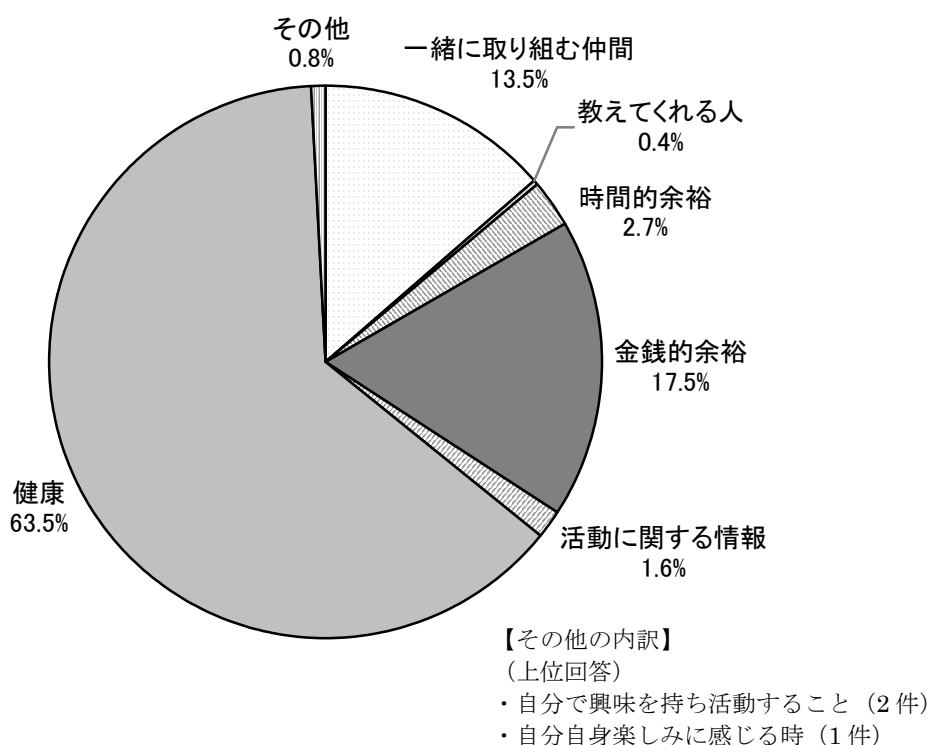


問7. あなたが「問2」のように5年後、「楽しみ」や「生きがい」を感じて生活していくために最も重要なことは何だと思えますか。当てはまるものに1つ〇をつけてください。

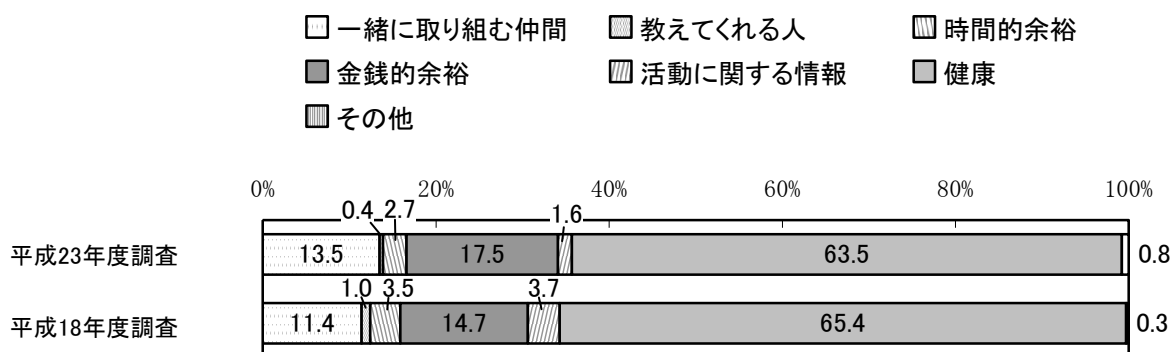
- 「健康」を選ぶ人が圧倒的に多く、6割以上の方が重要としている。
- 金銭的余裕、一緒に取り組む仲間と回答した割合も健康の次に多くを占めている。

(上位回答)

- ・ 「健康」(63.5%)
- ・ 「金銭的余裕」(17.5%)
- ・ 「一緒に取り組む仲間」(13.5%)



- 前回調査と比べ、健康がやや減少した反面、仲間や金銭面と回答した割合が増加している。

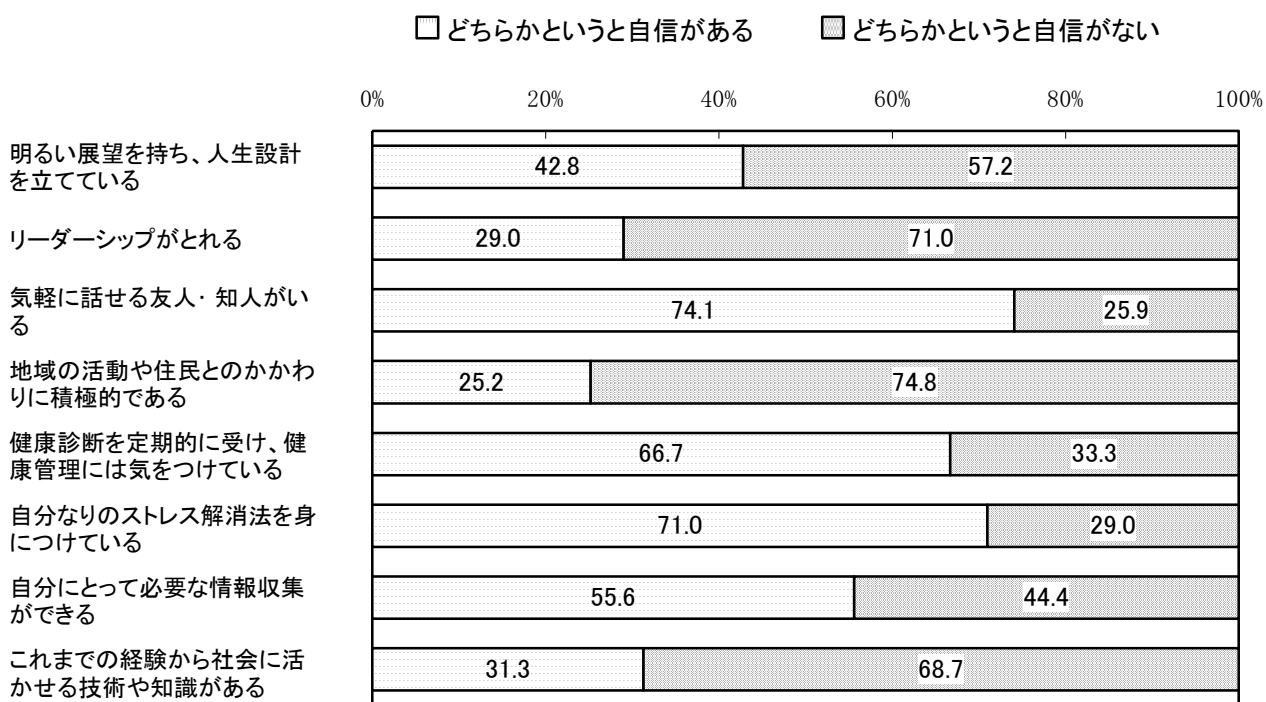


問8. あなたは次のことに対してどのくらい自信がありますか。当てはまるものを各項目につき1つ〇をつけてください。

- 友人、知人との関係にはある程度自信をもっているが、地域住民との関係や、リーダーシップをとることについては比較的自信がない人が多い。
- 自分なりのストレス解消法や健康管理と回答した割合も高く、約7割を占めている。

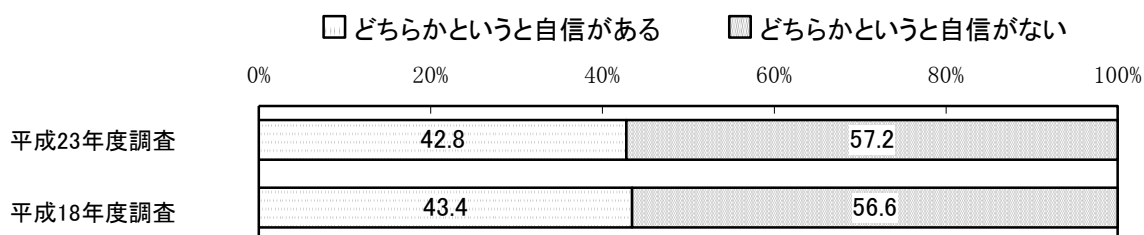
どちらかという自信がある  
(上位回答)

- ・ 「気軽に話せる友人・知人がいる」(74.1%)
- ・ 「自分なりのストレス解消法を身につけている」(71.0%)
- ・ 「健康診断を定期的に受け、健康管理には気をつけている」(66.7%)



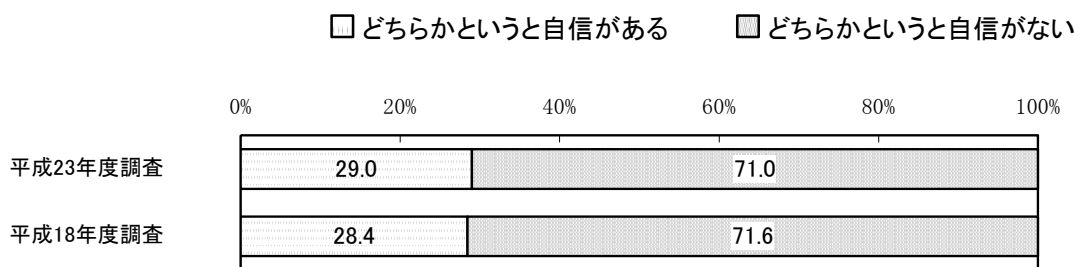
問8-1 明るい展望を持ち、人生設計を立てている

- 前回調査と同様に、4割以上が明るい人生設計を立てていると回答している。



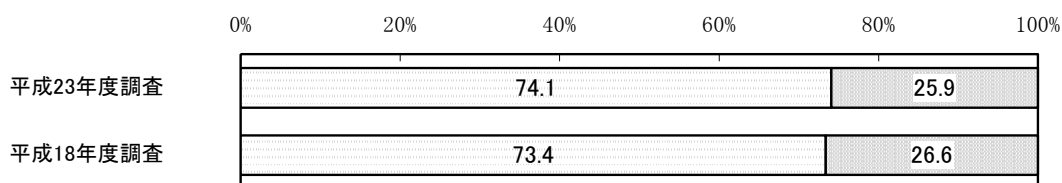
### 問 8 - 2 リーダーシップがとれる

■ 前回調査と同様に、約 3 割がリーダーシップがとれると回答している。



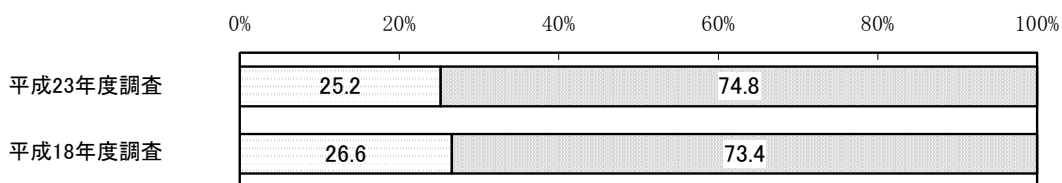
### 問 8 - 3 気軽に話せる友人・知人がいる

■ 前回調査と同様に、7 割以上が気軽に話せる友人・知人がいると回答している。



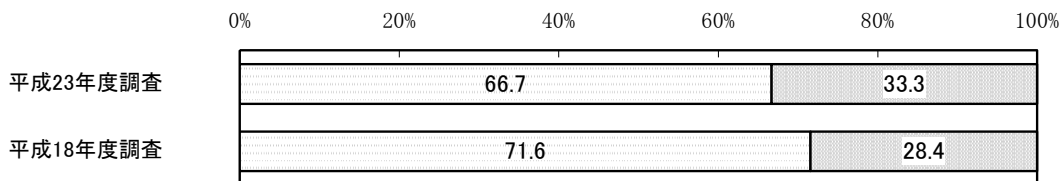
### 問 8 - 4 地域の活動や住民とのかかわりに積極的である

■ 前回調査と同様に、3 割近くが積極的に地域活動や住民とかかわっていると回答している。



### 問 8 - 5 健康診断を定期的に受け、健康管理には気をつけている

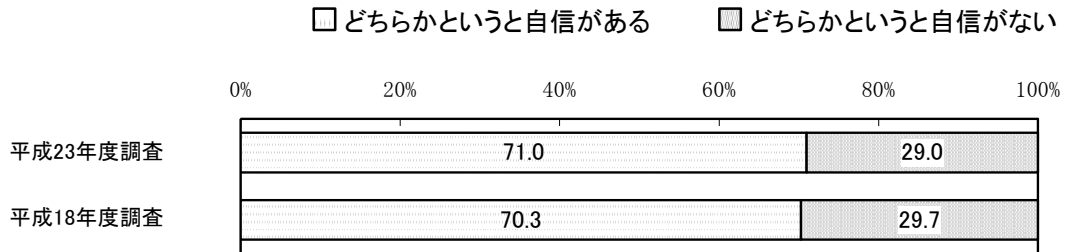
■ 前回調査と比べ割合はやや減少しているが、7 割近くが健康管理に気をつけていると回答している。





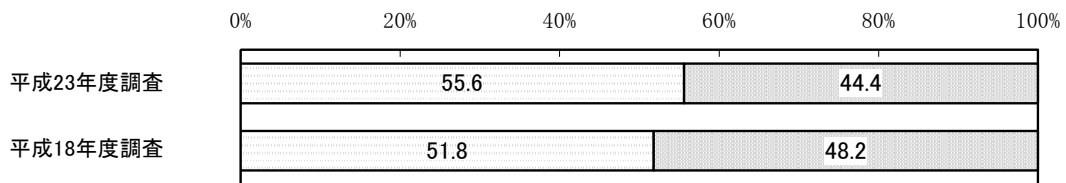
問 8-6 自分なりのストレス解消法を身につけている

- 前回調査と同様に、7割以上が自分なりのストレス解消法を身につけていると回答している。



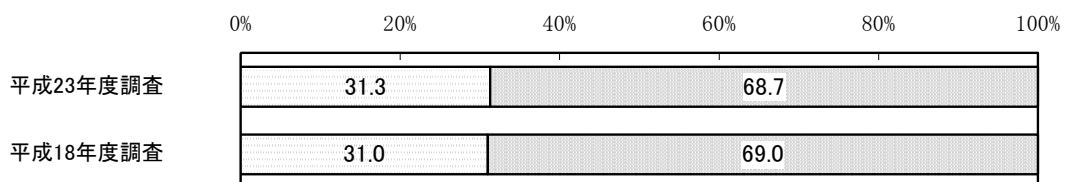
問 8-7 自分にとって必要な情報収集ができる

- 前回調査と比べ、情報集種ができる割合が増加しており、6割近くを占めている。



問 8-8 これまでの経験から社会に活かせる技術や知識がある

- 前回調査と同様に、3割以上が技術や知識があると回答している。



問9. 新たな「楽しみ」や「生きがい」を見出すためには、あなたは、次のような支援策や講習があれば活用したいと思いますか。当てはまるものを各項目につき1つ○をつけてください。

- 健康づくりや各種趣味・実技に関する講座への需要は高い。
- ウォーキングや山歩きのスポーツイベントへの意識も高く、6割近くを占めている。

活用する（「有料でも活用する」「無料であれば活用する」）

（上位回答）

- ・ 「健康づくりに関する講習会やセミナー」（71.7%）（有料15.6%、無料56.1%）
- ・ 「各種趣味・実技に関する講座」（67.3%）（有料22.7%、無料44.6%）
- ・ 「ウォーキングや山歩き等の軽スポーツイベント」（56.5%）  
（有料15.8%、無料40.7%）

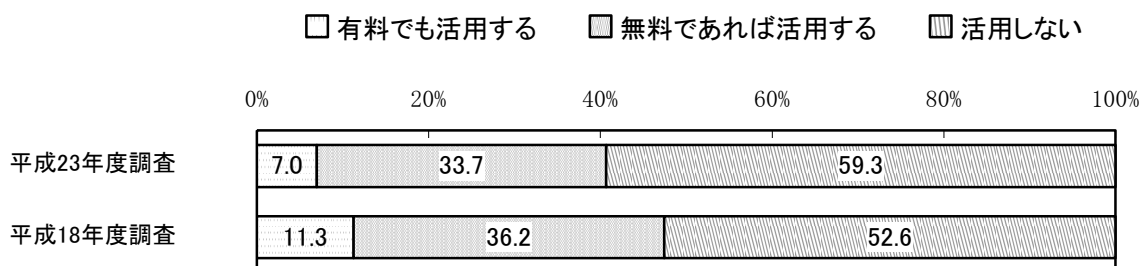
□ 有料でも活用する    □ 無料であれば活用する    ■ 活用しない

0%                      20%                      40%                      60%                      80%                      100%

支援策・講習	0%	20%	40%	60%	80%	100%
就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練	7.0	33.7	59.3			
能力開発に関する情報提供やセミナー	6.8	34.4	58.8			
生活設計や資産形成の計画（ファイナンシャルプラン）に関する情報提供やセミナー	3.3	28.6	68.1			
NPO活動やボランティア活動の情報提供やセミナー	3.2	32.2	64.5			
仲間づくりのための情報提供や支援	5.2	42.9	51.9			
健康づくりに関する講習会やセミナー	15.6	56.1	28.3			
インターネット・パソコン講習	9.8	38.8	51.4			
会話・話し方（コミュニケーション）講習	3.0	26.3	70.7			
各種趣味・実技に関する講座	22.7	44.6	32.6			
教養を高めるための講座	16.2	37.8	46.0			
ウォーキングや山歩き等の軽スポーツイベント	15.8	40.7	43.5			
ニュースポーツ（グラウンドゴルフやペタンク等）のイベント	3.7	22.1	74.2			

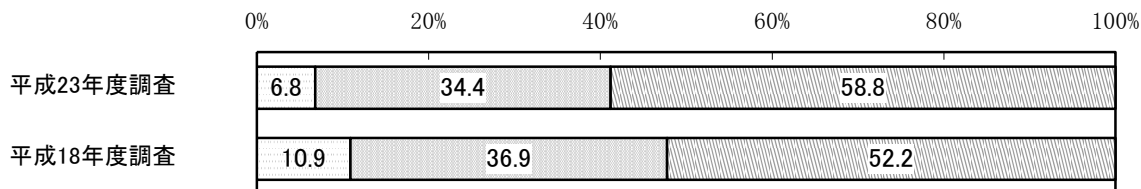
問9-1 就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練

■ 前回調査と比べやや減少しているが、4割以上が就業に関心があると回答している。



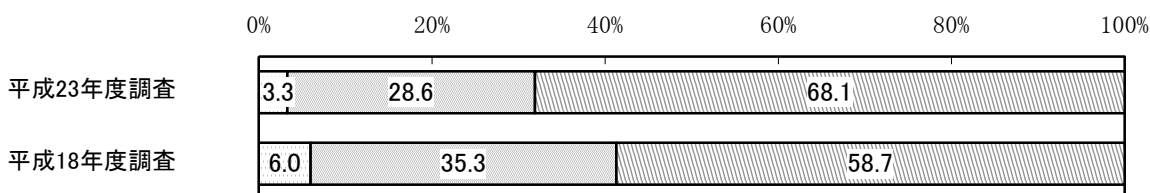
問9-2 能力開発に関する情報提供やセミナー

■ 前回調査と比べやや減少しているが、4割以上が能力開発に関心があると回答している。



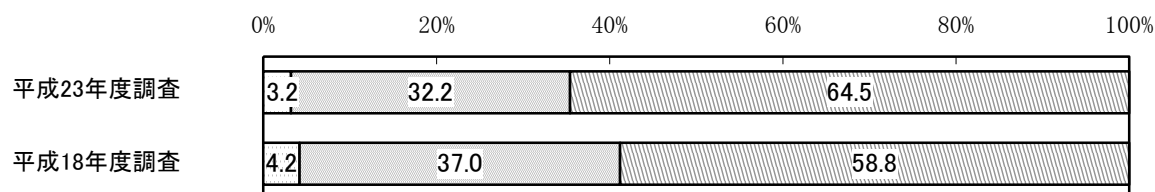
問9-3 生活設計や資産形成の計画（ファイナンシャルプラン）に関する情報提供やセミナー

■ 前回調査と比べやや減少しているが、3割以上が生活設計に関心があると回答している。



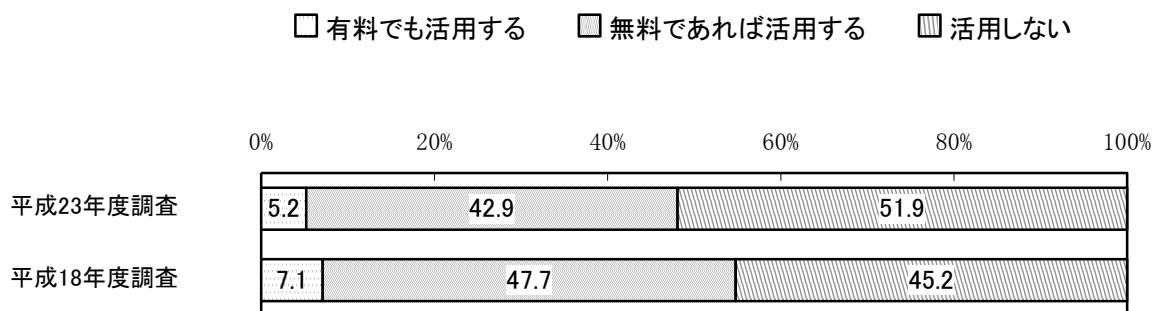
問9-4 NPO活動やボランティア活動の情報提供やセミナー

■ 前回調査と比べやや減少しているが、3割以上がボランティア活動に関心があると回答している。



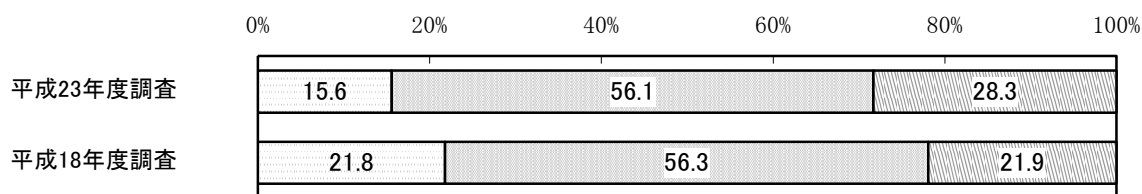
問9-5 仲間づくりのための情報提供や支援

■ 前回調査と比べやや減少しているが、半数近くが仲間づくりに関心があると回答している。



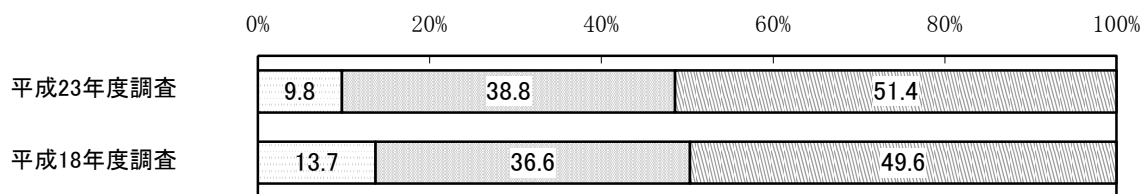
問9-6 健康づくりに関する講習会やセミナー

■ 前回調査と比べやや減少しているが、7割以上が健康に関心があると回答している。



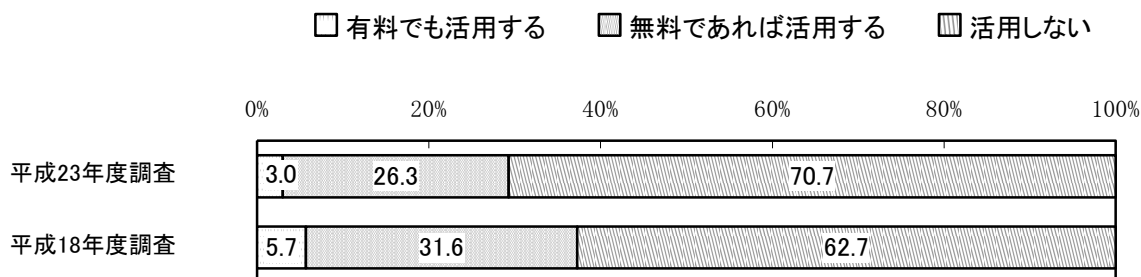
問9-7 インターネット・パソコン講習

■ 前回調査と同様に、5割近くがインターネットに関心があると回答している。



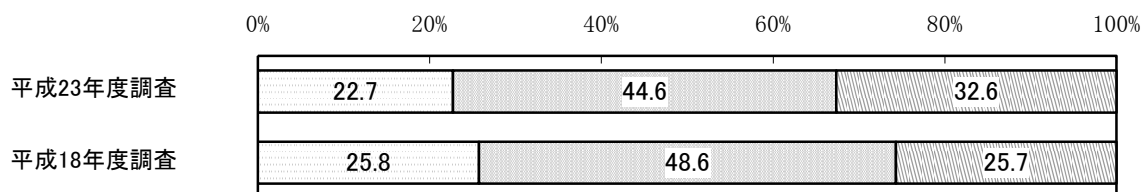
### 問9-8 会話・話し方（コミュニケーション）講習

■ 前回調査と比べやや減少しているが、約3割が話し方に関心があると回答している。



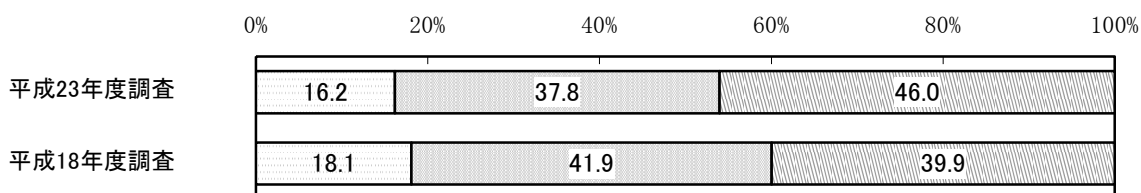
### 問9-9 各種趣味・実技に関する講座

■ 前回調査と比べやや減少しているが、7割近くが趣味・実技に関心があると回答している。



### 問9-10 教養を高めるための講座

■ 前回調査と比べやや減少しているが、半数以上が教養に関心があると回答している。



問10. 新たな「楽しみ」や「生きがい」を見出すためのイベントを行う場合、あなたはどのような企画なら参加しますか。ご自由にお書きください。

### 主なもの

- ・ウォーキング・山登り (37 件)
- ・旅行 (18 件)
- ・健康づくり (17 件)
- ・運動・スポーツ系・体を動かすイベント (16 件)
- ・気軽・自由に参加できるイベント (16 件)
- ・菜園・園芸・ガーデニング (15 件)
- ・地域交流 (13 件)
- ・カラオケ・合唱・音楽鑑賞 (12 件)
- ・ボランティア (12 件)
- ・趣味にあったイベント (11 件)
- ・料理・食に関するもの (9 件)
- ・家の近くで参加できるイベント (8 件)
- ・無料のイベント (7 件)
- ・多くの世代のイベント (7 件)
- ・国際交流・語学 (6 件)
- ・体操・ヨガ (6 件)
- ・ゴルフ・グラウンドゴルフ (5 件)
- ・釣り (5 件)
- ・日本文化 (5 件)
- ・同世代のイベント (5 件)
- ・政治・経済 (4 件)
- ・ダンス・踊り (4 件)
- ・能力・体力に合ったイベント (4 件)
- ・ボーリング (3 件)
- ・歴史 (3 件)
- ・絵画 (3 件)
- ・囲碁・将棋 (3 件)

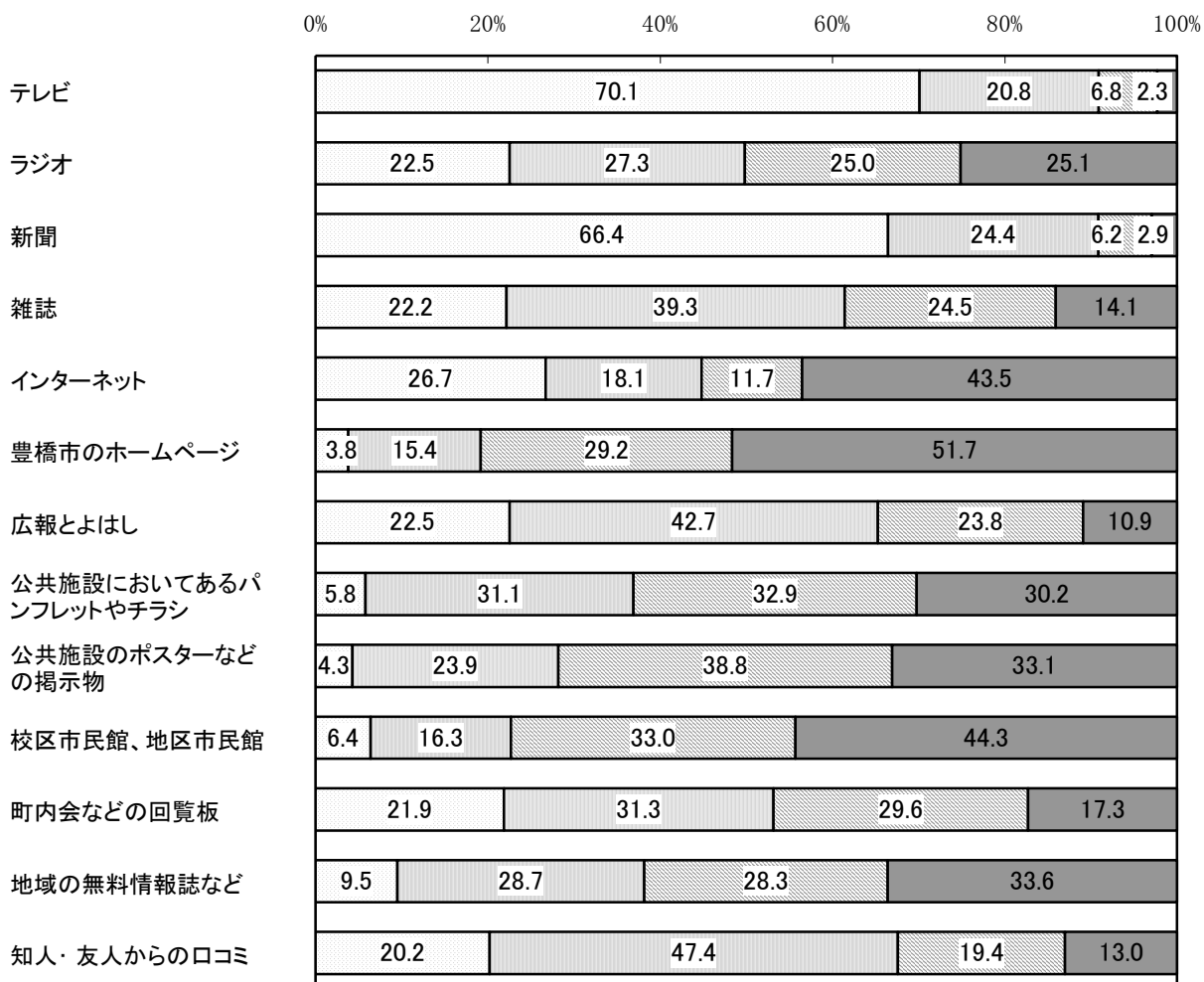
問 11. あなたが普段利用する主な情報源は何ですか。当てはまるものを各項目につき1つ○をつけてください。

■ 情報源は、「テレビ」や「新聞」が圧倒的に多い。

よく利用する  
(上位回答)

- ・ 「テレビ」(70.1%)
- ・ 「新聞」(66.4%)
- ・ 「インターネット」(26.7%)

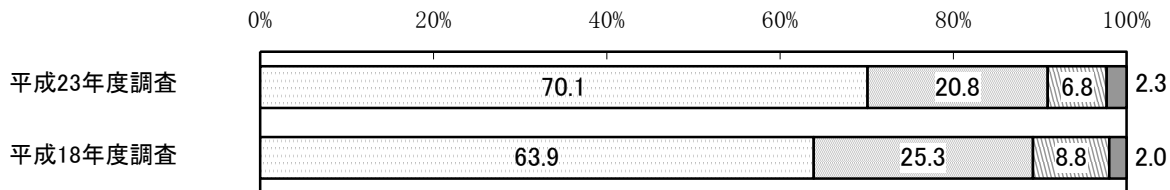
□ よく利用する □ たまに利用する □ あまり利用しない □ 全く利用しない



### 問 11-1 テレビ

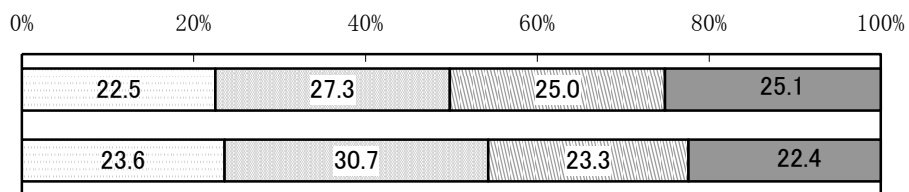
■ 前回調査と同様、約9割がテレビを利用すると回答している。

□ よく利用する □ たまに利用する □ あまり利用しない ■ 全く利用しない



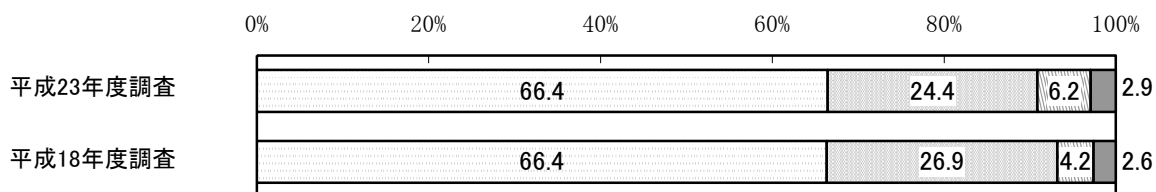
### 問 11-2 ラジオ

■ 前回調査と同様に、約半数がラジオを利用すると回答している。



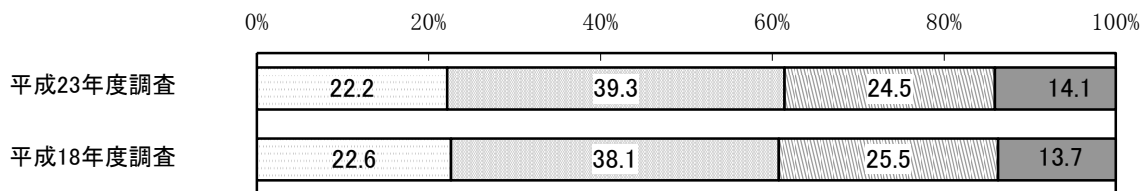
### 問 11-3 新聞

■ 前回調査と同様に、9割以上が新聞を利用すると回答している。



### 問 11-4 雑誌

■ 前回調査と同様に、6割以上が雑誌を利用すると回答している。

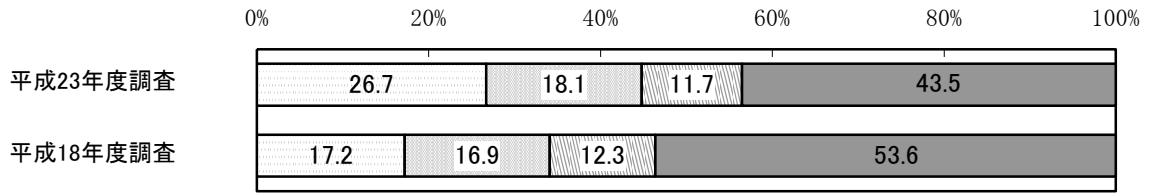




問 11-5 インターネット

■ 前回調査と比べ、インターネットを利用する割合が増加している。

□ よく利用する □ たまに利用する □ あまり利用しない ■ 全く利用しない

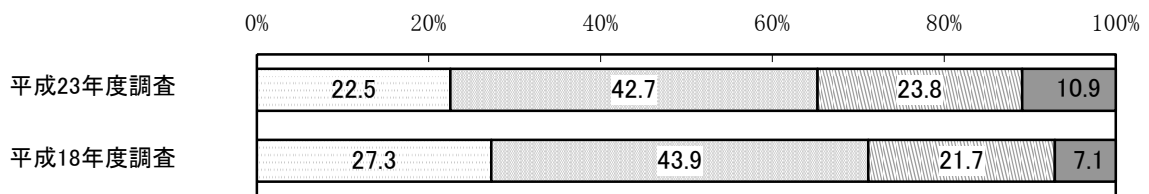


問 11-6 豊橋市のホームページ

■ 前回調査なし。

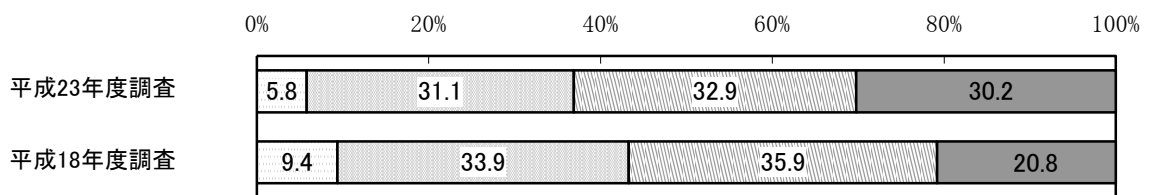
問 11-7 広報とよはし

■ 前回調査と比べやや減少しているが、7割近くが広報とよはしを利用すると回答している。



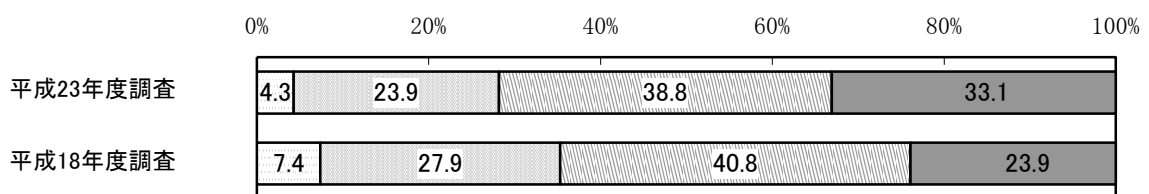
問 11-8 公共施設においてあるパンフレットやチラシ

■ 前回調査と比べやや減少しているが、4割近くがチラシを利用すると回答している。



問 11-9 公共施設のポスターなどの掲示物

■ 前回調査と比べやや減少しているが、3割近くが掲示物を利用すると回答している。



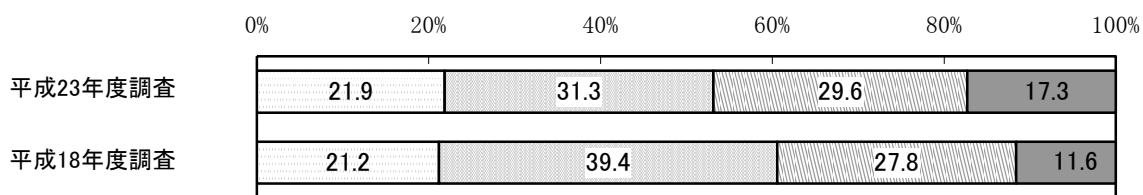
問 11-10 校区市民館、地区市民館

■ 前回調査なし。

問 11-11 町内会などの回覧板

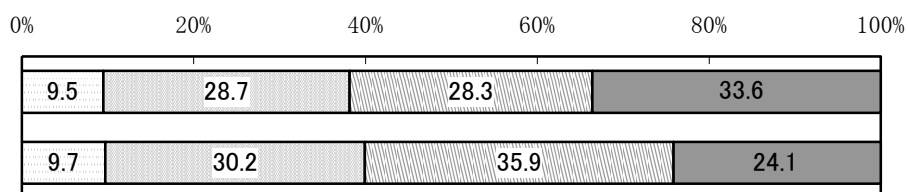
■ 前回調査と比べやや減少しているが、半数以上が回覧板を利用すると回答している。

□ よく利用する □ たまに利用する □ あまり利用しない □ 全く利用しない



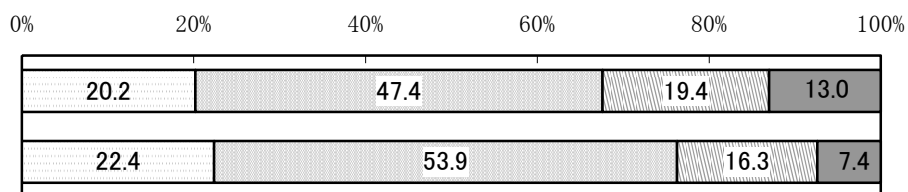
問 11-12 地域の無料情報誌など

■ 前回調査と同様に、4割近くが無料情報誌を利用すると回答している。



問 11-13 知人・友人からの口コミ

■ 前回調査と比べやや減少しているが、7割近くが口コミから情報を得ている。

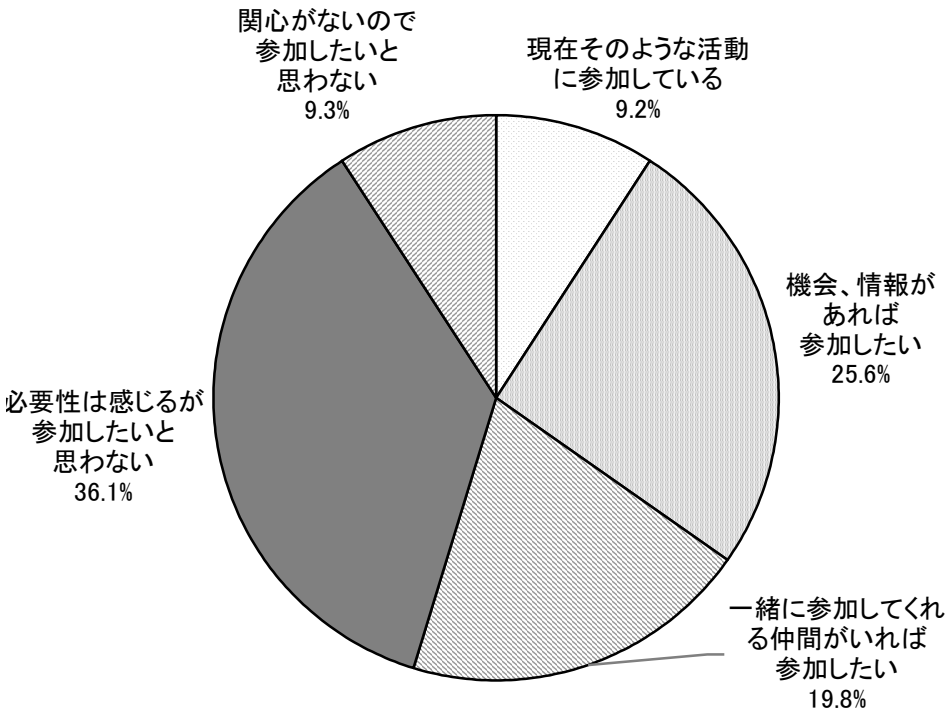


問 12. 地域活動、NPO活動やボランティアなどの社会参加・貢献活動について、あなたの考えに近いもの1つに○をつけてください。

■ 現在活動に参加している、何かきっかけがあれば参加したいと回答した人が全体の過半数を占めている。

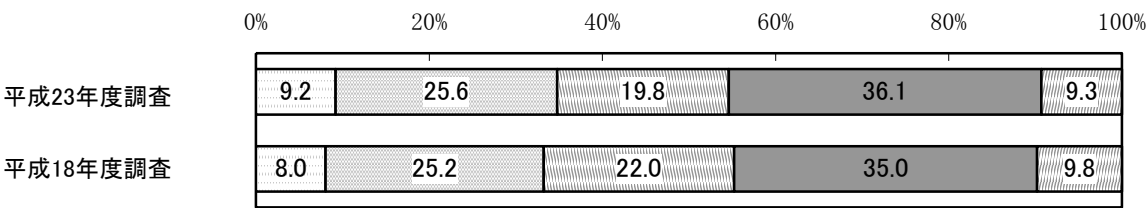
(上位回答)

- ・ 「必要性は感じるが参加したいと思わない」 (36.1%)
- ・ 「機会、情報があれば参加したい」 (25.6%)
- ・ 「一緒に参加してくれる仲間がいれば参加したい」 (19.8%)



■ 前回調査と同様に、参加したい割合も前回と同様に、約5割を占めている。

- 現在そのような活動に参加している
- 機会、情報があれば参加したい
- 一緒に参加してくれる仲間がいれば参加したい
- 必要性は感じるが参加したいと思わない
- 関心がないので参加したいと思わない

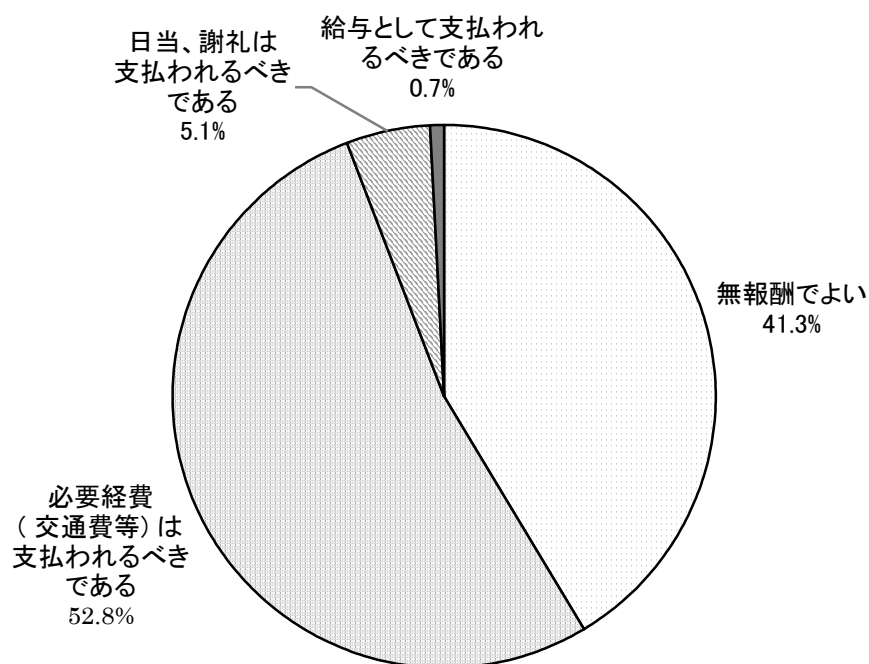


問13. あなたは、「問12」の活動をするとした場合、報酬等についてどのように考えますか。当てはまるものに1つ〇をつけてください。

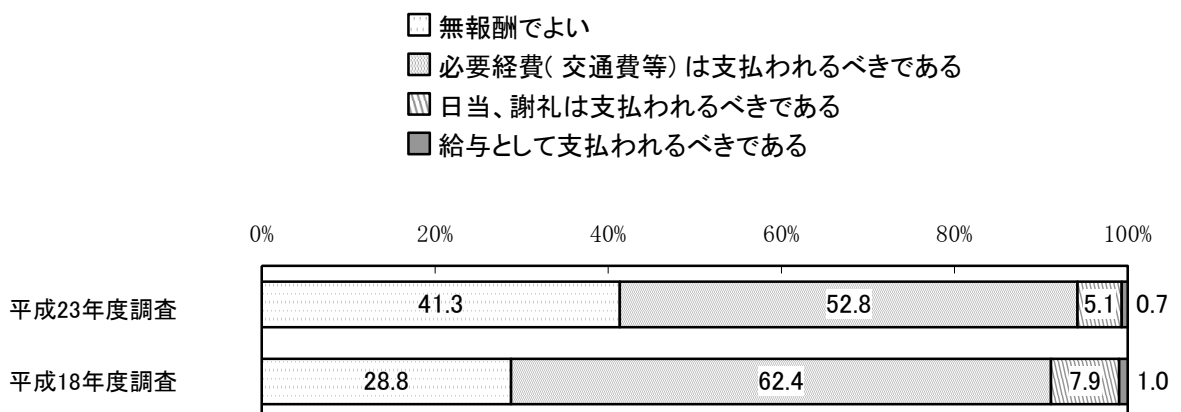
- 半数以上の方が「必要経費（交通費等）は支払われるべきである」と考えている。
- 「無報酬でよい」の割合が4割以上を占めている。

（上位回答）

- ・ 「必要経費（交通費等）は支払われるべきである」（52.8%）
- ・ 「無報酬でよい」（41.3%）
- ・ 「日当、謝礼は支払われるべきである」（5.1%）



- 前回調査と比べ、金銭は関係なく活動への参加意欲が増加している。

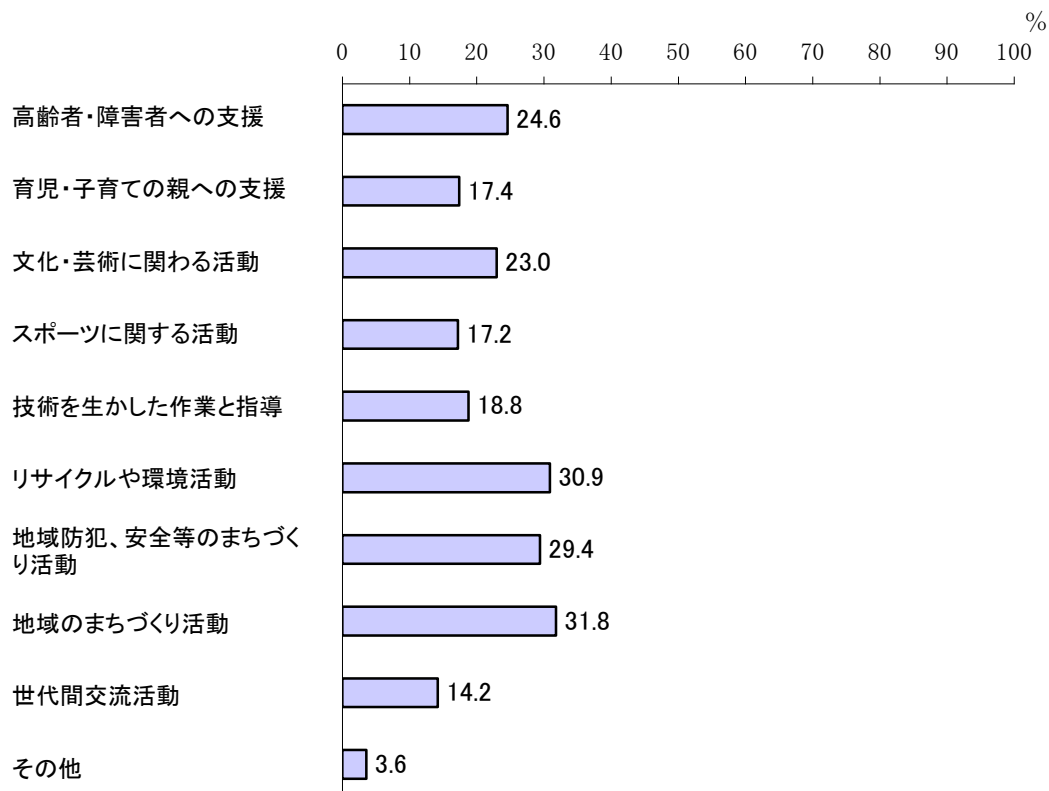


問 14. あなたは、「問 1 2」の活動をするとした場合、参加したい活動分野・領域について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

■ スポーツや文化活動に比べ、地域活動、環境活動、防犯活動への参加意欲が高い。

(上位回答)

- ・ 「地域のまちづくり活動」 (31.8%)
- ・ 「リサイクルや環境活動」 (30.9%)
- ・ 「地域防犯、安全等のまちづくり活動」 (29.4%)



【その他の内訳】

(上位回答)

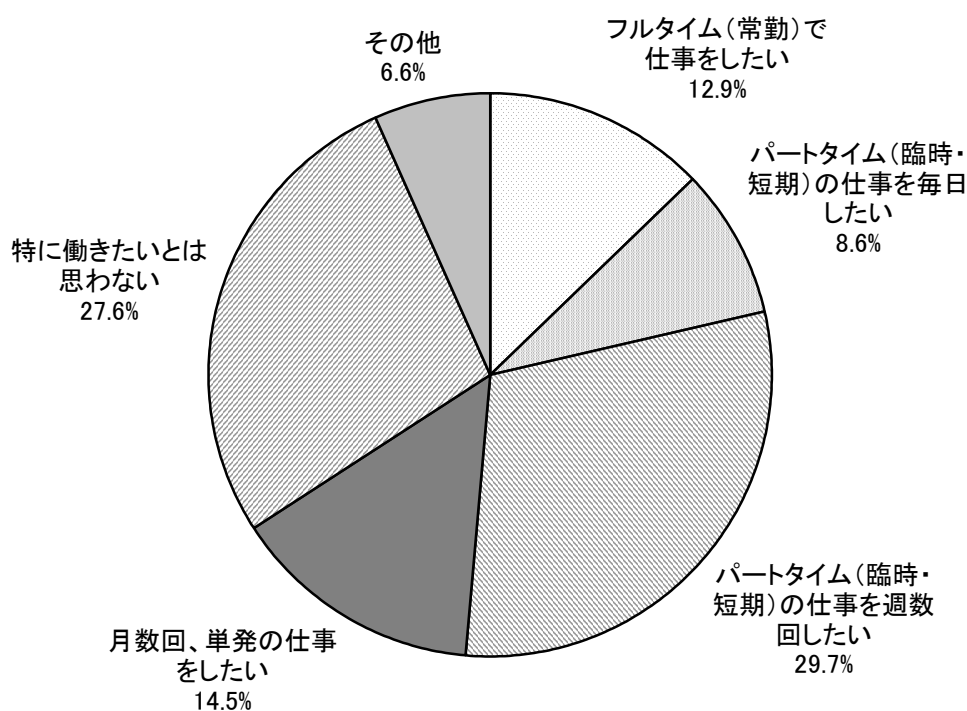
- ・ 環境問題への活動 (3件)
- ・ 不登校支援 (1件)
- ・ 困っている人の手助け (1件)
- ・ 捨て猫、捨て犬のボランティア (1件)
- ・ 道徳性を高める活動 (1件)

問 15. 仕事についてお伺いします。5年後にあなたが「仕事」をするとすれば、どの程度の仕事をしたいと思いますか。当てはまるものに1つ〇をつけてください。

■ 5年後においても仕事をしたいと考えている人が6割以上を占めている。

(上位回答)

- ・ 「パートタイム（臨時・短期）の仕事に週数回したい」（29.7%）
- ・ 「特に働きたいとは思わない」（27.6%）
- ・ 「月数回、単発の仕事をしたい」（14.5%）



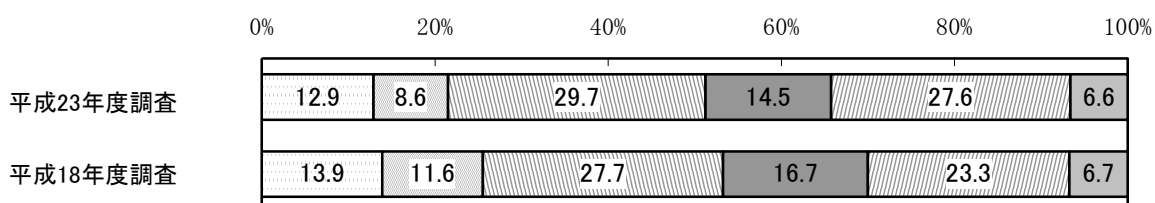
【その他の内訳】

(上位回答)

- ・ 週に数回常勤（フルタイム）（2件）
- ・ 週2回（1件）
- ・ 週5回、1日4時間（1件）
- ・ 週3日（1件）
- ・ 毎週午前中アルバイト（1件）

■ 前回調査と同様に、仕事をしたいと考えている人が6割以上を占めている。

- フルタイム(常勤)で仕事をしたい
- パートタイム(臨時・短期)の仕事に毎日したい
- パートタイム(臨時・短期)の仕事に週数回したい
- 月数回、単発の仕事をしたい
- 特に働きたいとは思わない
- その他

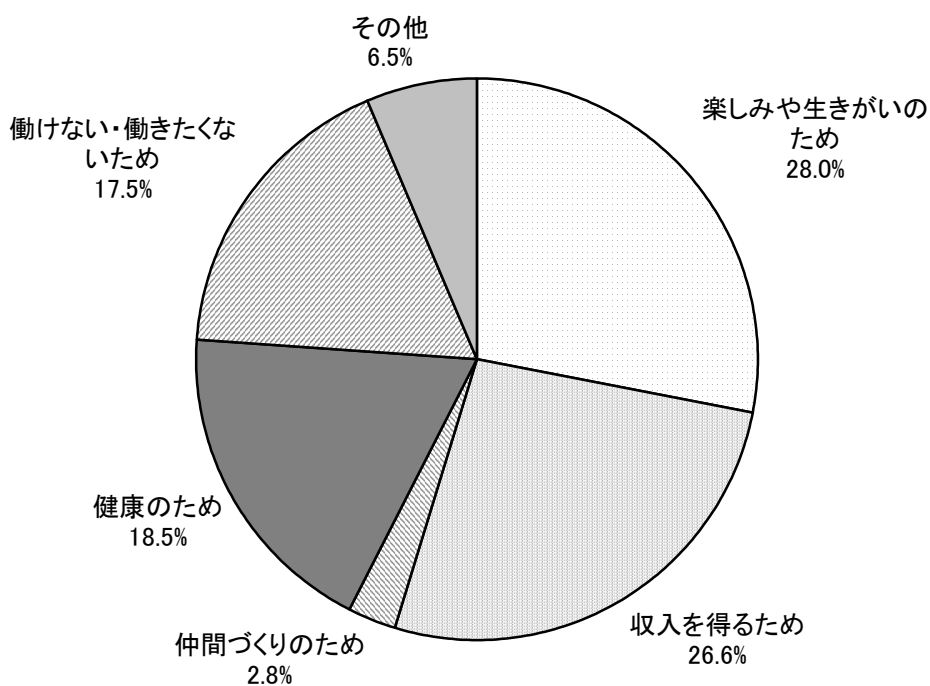


問 16. 上記の「問 15」で答えていただいたことについて、その最も強い理由はなんですか。当てはまるものに1つ〇を付けてください。

- 仕事を生きがい、健康、仲間づくりのためとする人が全体の約半数を占めているが、収入を理由としている人も全体の 1/4 を占めている。

(上位回答)

- ・ 「楽しみや生きがいのため」 (28.0%)
- ・ 「収入を得るため」 (26.6%)
- ・ 「健康のため」 (18.5%)

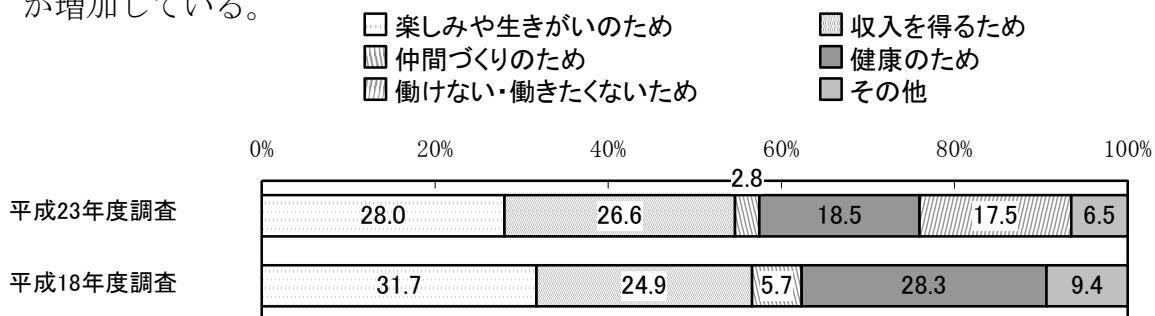


【その他の内訳】

(上位回答)

- ・ 家のこと (家事や畑や介護) でやることがあるため (12 件)
- ・ 健康・身体的に不安なため (9 件)
- ・ 今まで十分働いたため (9 件)

- 前回調査と比べ、健康のためが減少している反面、働けない・働きたくないためが増加している。



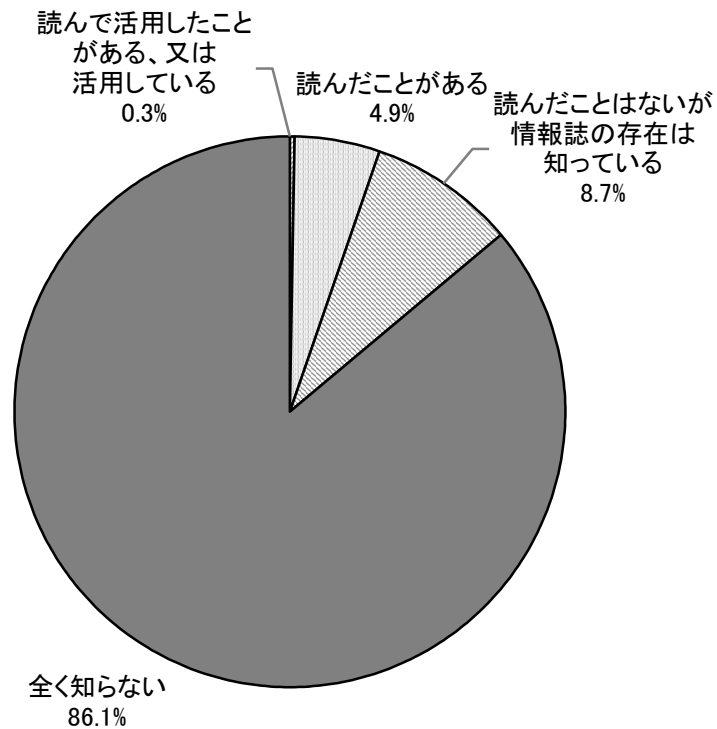
## 2 シニア向けの行政サービスについて

問 17. 豊橋市ではアクティブシニア応援マガジン『アクティ』情報誌を発行しています。この情報誌について、当てはまるものに1つ○を付けてください。

- 『アクティ』情報誌のことを知らない人が8割をこえており、非常に認知度が低い。

(上位回答)

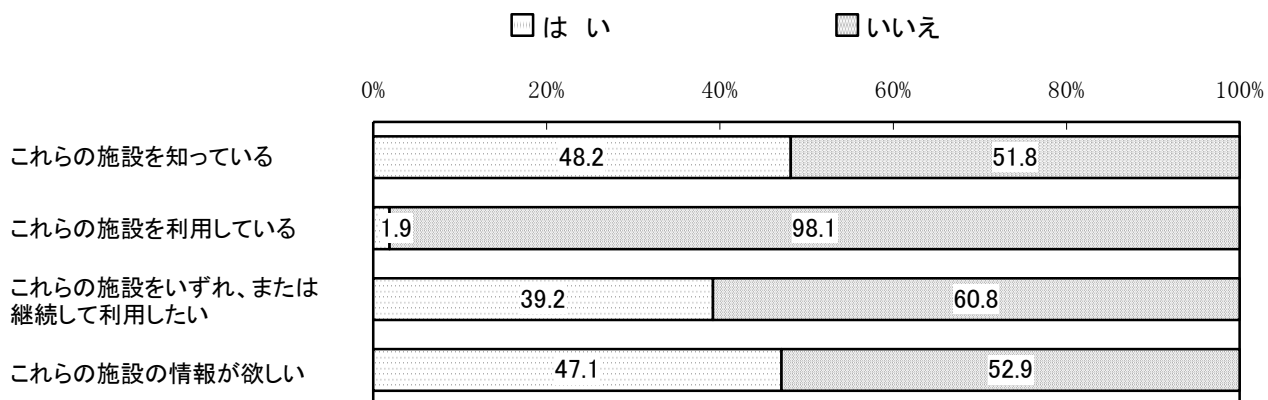
- ・ 「全く知らない」(86.1%)
- ・ 「読んだことはないが情報誌の存在は知っている」(8.7%)
- ・ 「読んだことがある」(4.9%)





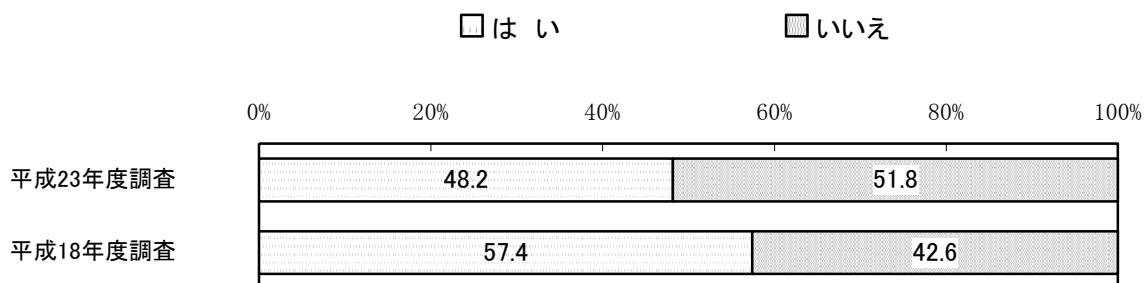
問 18. 豊橋市には、「老人福祉センター」とその機能を備えた「地域福祉センター」、「老人憩の家」などの施設があります。これらの施設について、当てはまるものを各項目につき1つ〇をつけてください。

- 約半数が施設を知っていると回答している。
- 施設の情報がほしい割合が約5割を占めている。



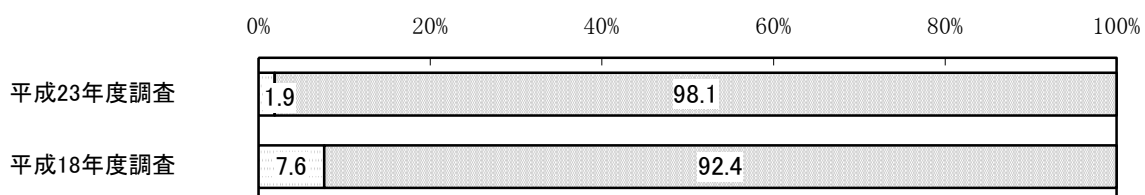
問 18-1 これらの施設を知っている

- 前回調査と比べやや割合が減少するが、約5割が知っていると回答している。



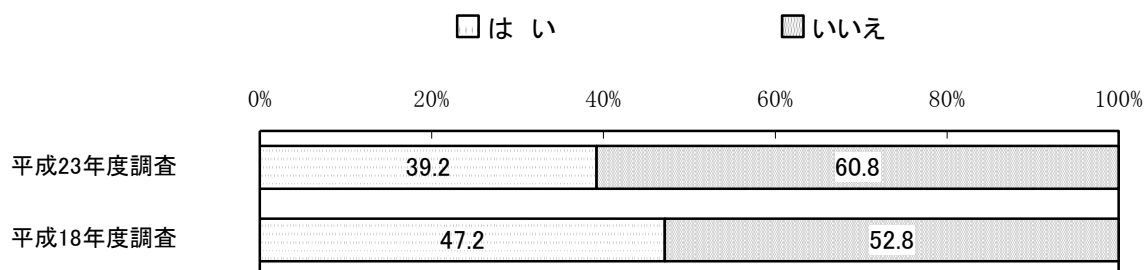
問 18-2 これらの施設を利用している

- 前回調査と同様に、施設を利用している割合は圧倒的に低い。



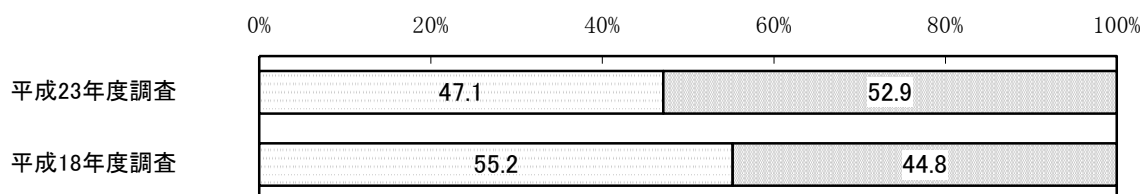
### 問 18-3 これらの施設をいずれ、または継続して利用したい

- 前回調査と比べやや割合が減少しているが、約 4 割が施設を利用したいと回答している。



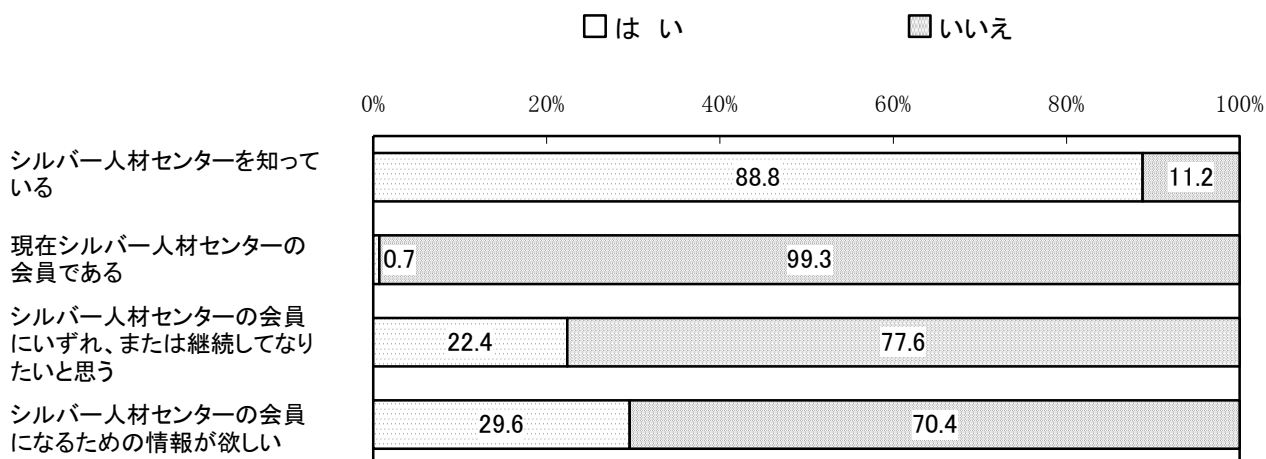
### 問 18-4 これらの施設の情報が欲しい

- 前回調査と比べやや割合が減少しているが、約 5 割が施設の情報が欲しいと回答している。



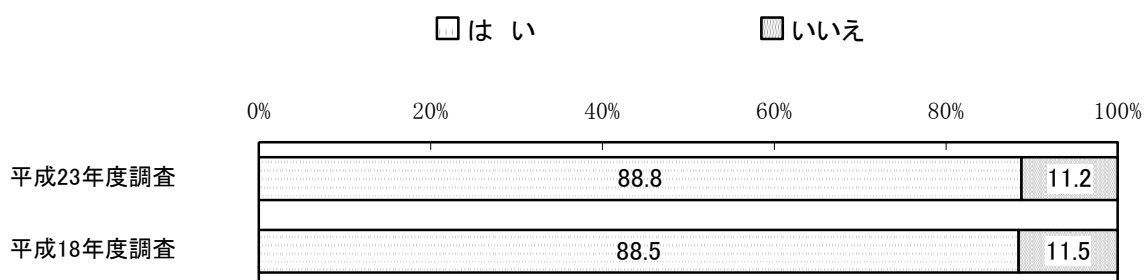
問 19. 豊橋市には、働く喜びと社会参加の輪を広げるため、「シルバー人材センター」があります。「シルバー人材センター」について、当てはまるものを各項目につき1つ○をつけてください。

■ シルバー人材センターを知っている人は9割弱と認知度は高いが、会員になるための情報が欲しいと答えた人が3割弱を占めている。



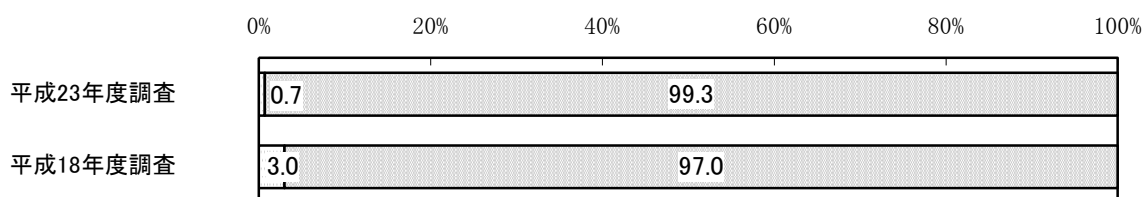
### 問 19-1 シルバー人材センターを知っている

■ 前回調査と同様に、知っている割合は高く、約9割を占めている。



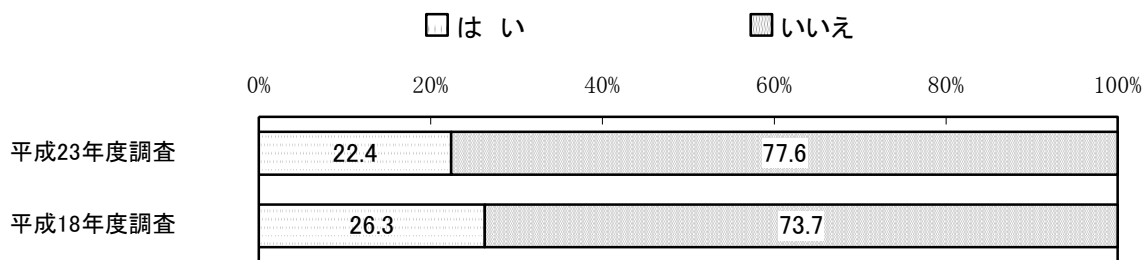
### 問 19-2 現在シルバー人材センターの会員である

■ 前回調査と同様に、会員である割合は圧倒的に低い。



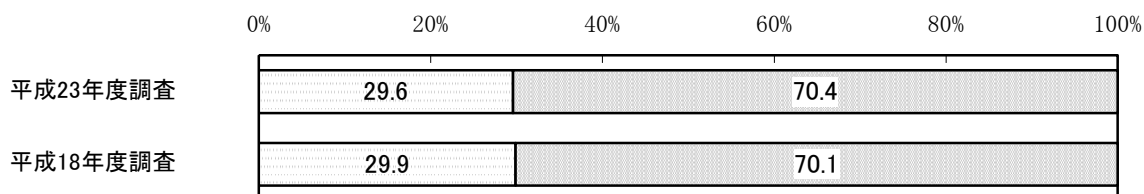
問 19-3 シルバー人材センターの会員にいずれ、または継続してなりたいと思う

■ 前回調査と同様に、2割以上が会員になりたいと回答している。



問 19-4 シルバー人材センターの会員になるための情報が欲しい

■ 前回調査と同様に、3割近くが情報が欲しいと回答している。

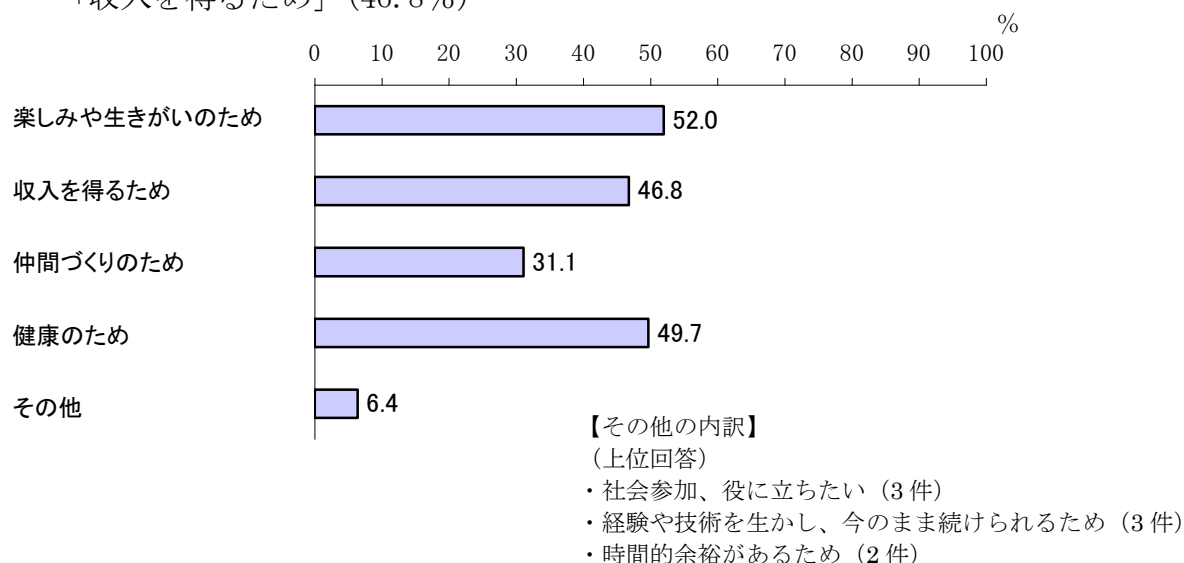


問 19-5 シルバー人材センターの会員に登録する理由について当てはまるもの全てに○をつけてください。

■ 「楽しみや生きがいのため」「健康のため」を理由としている人が約半数を占めている。

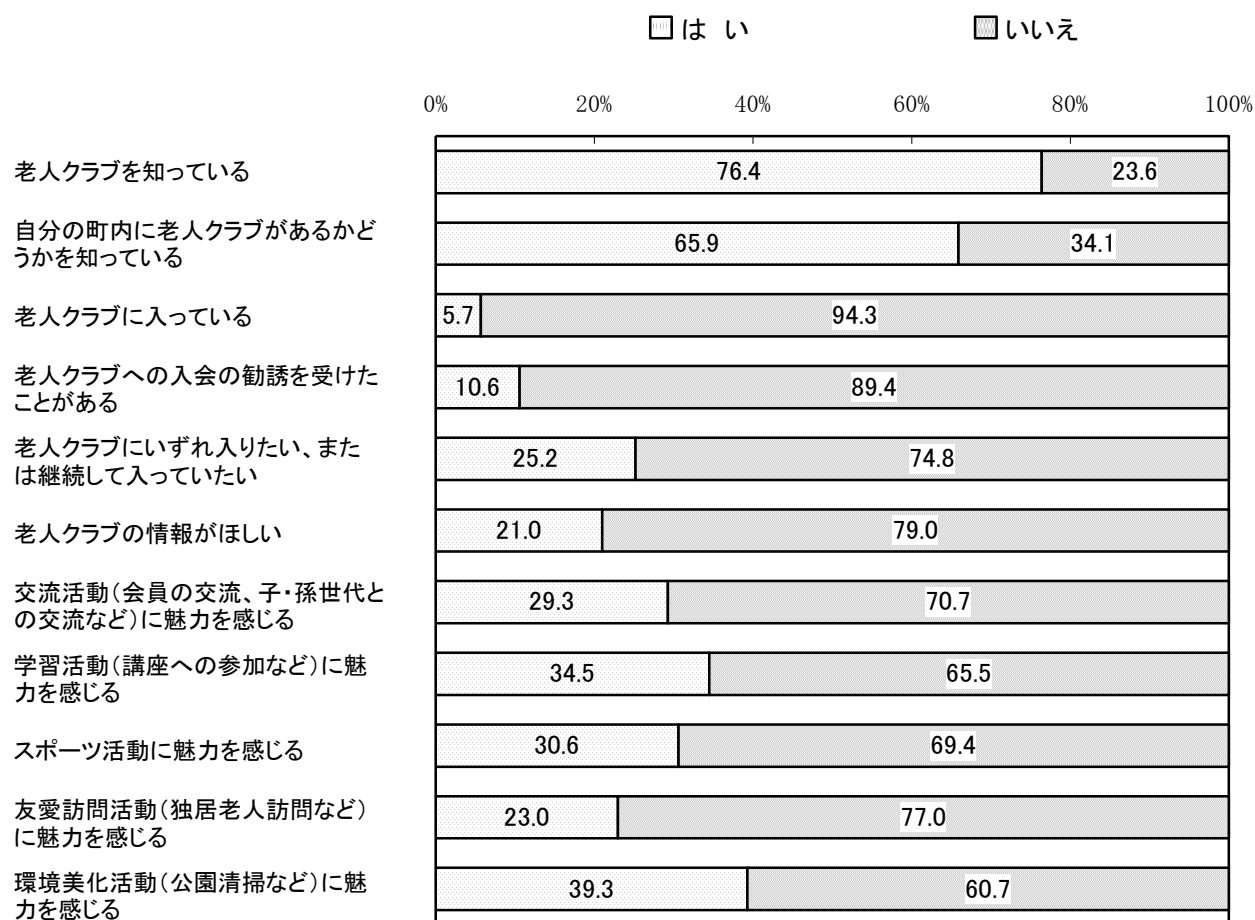
(上位回答)

- ・ 「楽しみや生きがいのため」 (52.0%)
- ・ 「健康のため」 (49.7%)
- ・ 「収入を得るため」 (46.8%)



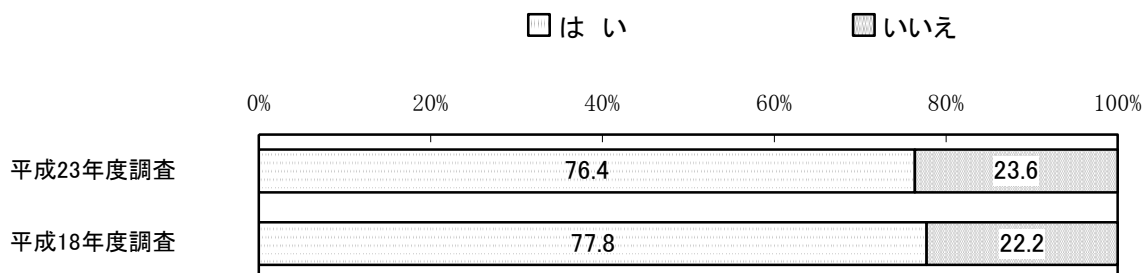
問 20. 豊橋市には、各地域に「老人クラブ」があり、多様な活動をおこなっています。「老人クラブ」について、当てはまるものを各項目につき1つ〇をつけてください。

■ 老人クラブを知っている人は7割以上と認知度は高い。



### 問 20-1 老人クラブを知っている

■ 前回調査と同様に、老人クラブを知っている割合は、8割近くを占めている。

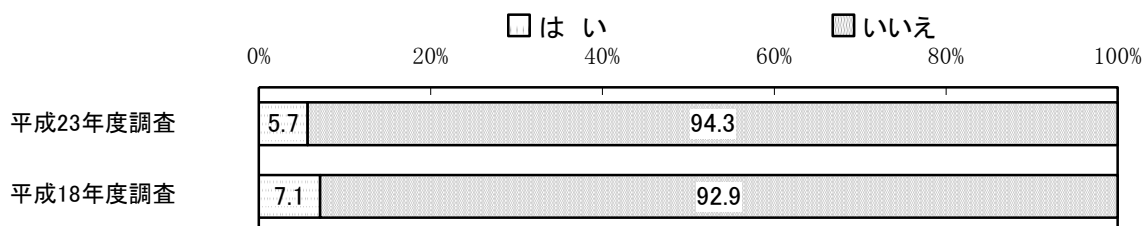


問 20-2 自分の町内に老人クラブがあるかどうかを知っている

■ 前回調査なし

問 20-3 老人クラブに入っている

■ 前回調査と同様に、老人クラブに入っている割合は圧倒的に低い。

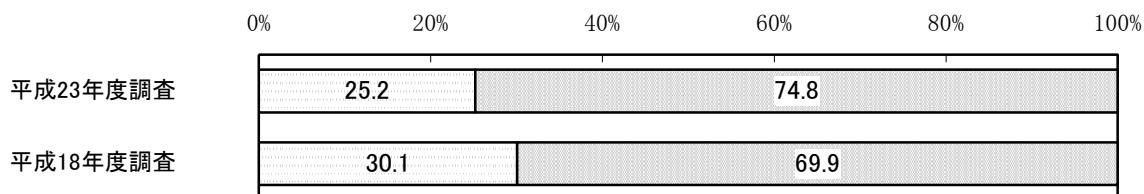


問 20-4 老人クラブへの入会の勧誘を受けたことがある

■ 前回調査なし

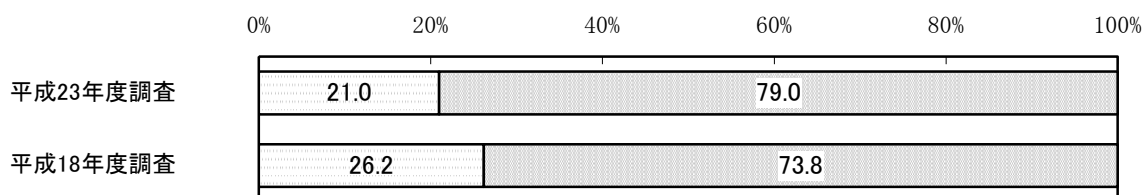
問 20-5 老人クラブにいずれ入りたい、または継続して入ってほしい

■ 前回調査と同様に、約3割が老人クラブにいずれ入りたいと回答している。



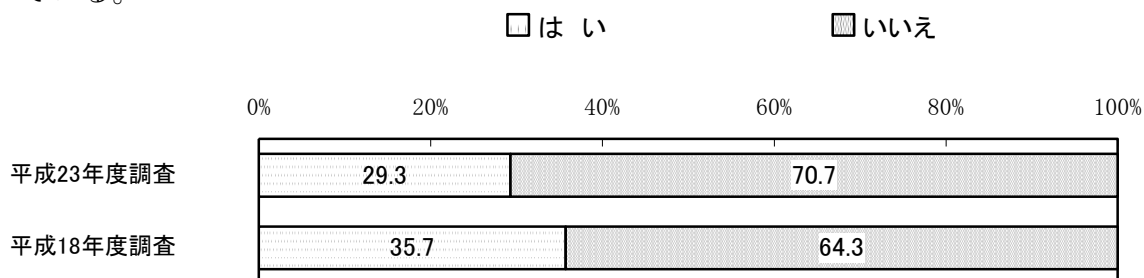
問 20-6 老人クラブの情報がほしい

■ 前回調査と同様に、2割以上が情報がほしいと回答している。



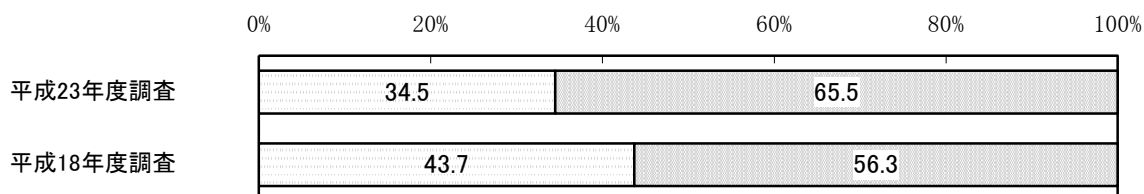
問 20-7 交流活動（会員の交流、子・孫世代との交流など）に魅力を感じる

■ 前回調査と比べやや減少しているが、約 3 割が交流活動に魅力を感じると回答している。



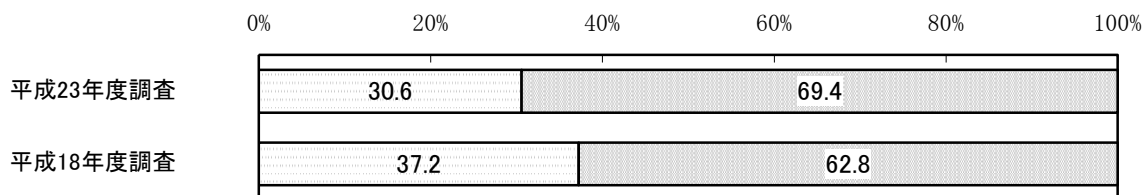
問 20-8 学習活動（講座への参加など）に魅力を感じる

■ 前回調査と比べやや減少しているが、3 割以上が学習活動に魅力を感じると回答している。



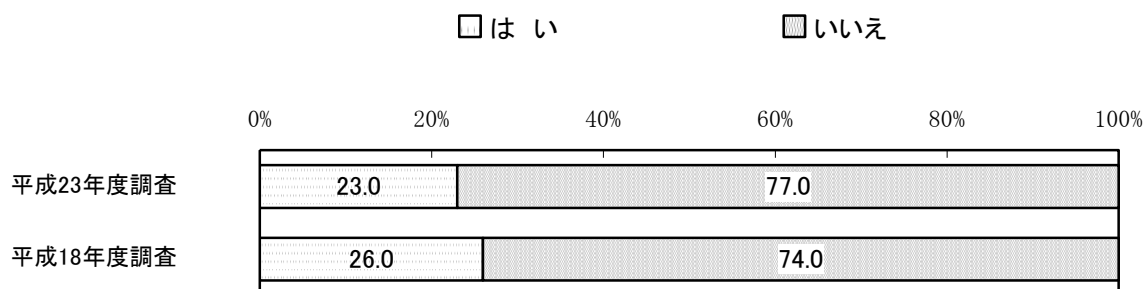
問 20-9 スポーツ活動に魅力を感じる

■ 前回調査と比べやや減少しているが、約 3 割がスポーツ活動に魅力を感じると回答している。



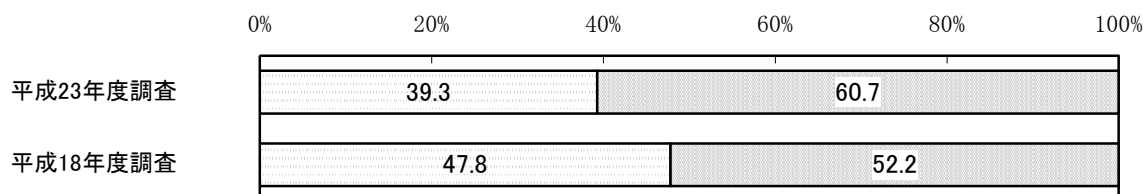
### 問 20-10 友愛訪問活動（独居老人訪問など）に魅力を感じる

■ 前回調査と同様に、2割以上が友愛訪問活動に魅力を感じると回答している。



### 問 20-11 環境美化活動（公園清掃など）に魅力を感じる

■ 前回調査と比べやや減少しているが、約4割が環境美化活動に魅力を感じると回答している。





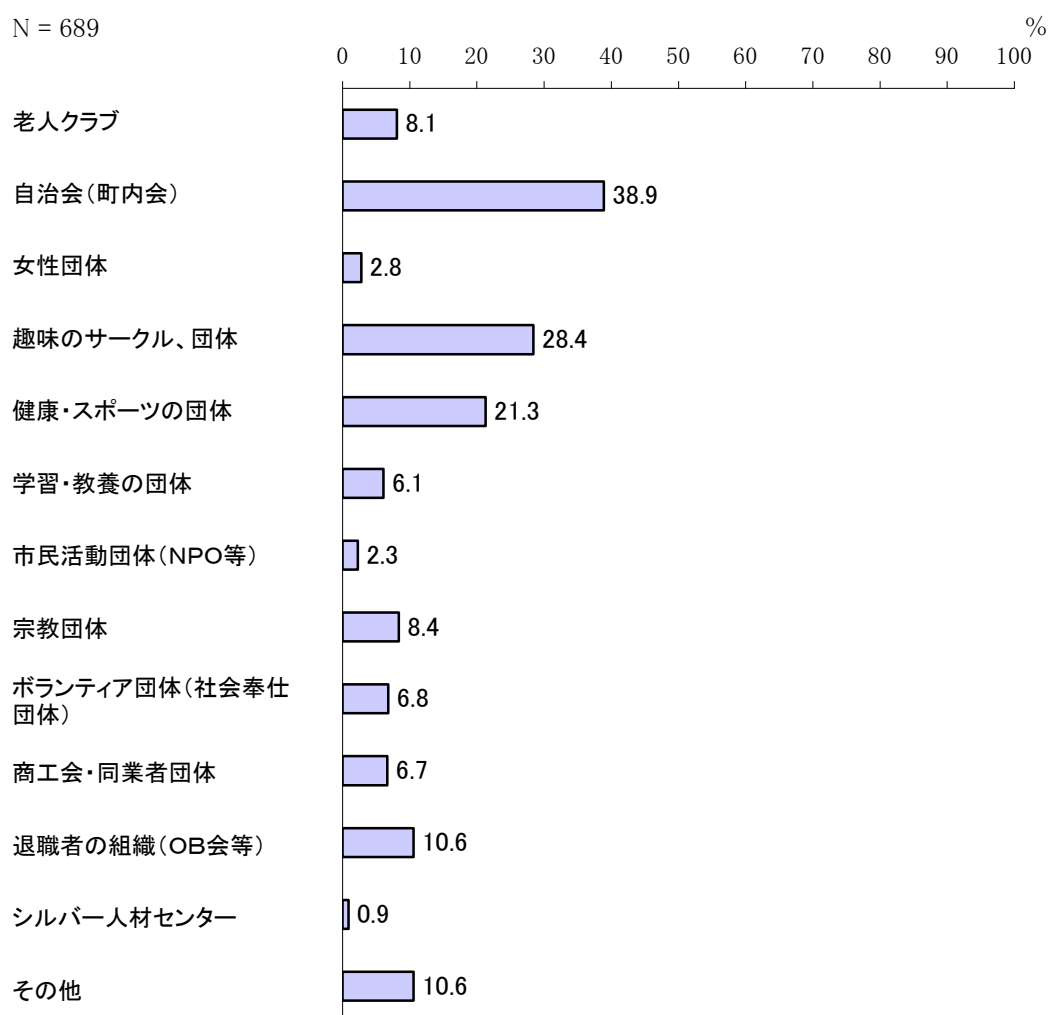
### 3 回答者属性

#### 参加している団体

- 自治会（町内会）が4割弱を占めている。
- 趣味や、健康に関する団体に参加している割合も高く、趣味や健康への意識が高いことが窺える。

（上位回答）

- ・ 「自治会（町内会）」（38.9%）
- ・ 「趣味のサークル、団体」（28.4%）
- ・ 「健康・スポーツの団体」（21.3%）



【その他の内訳】

（上位回答）

- ・ 会社組織（6件）
- ・ 健康やスポーツ関係（4件）
- ・ 子ども会・少年・青年団等の活動（4件）

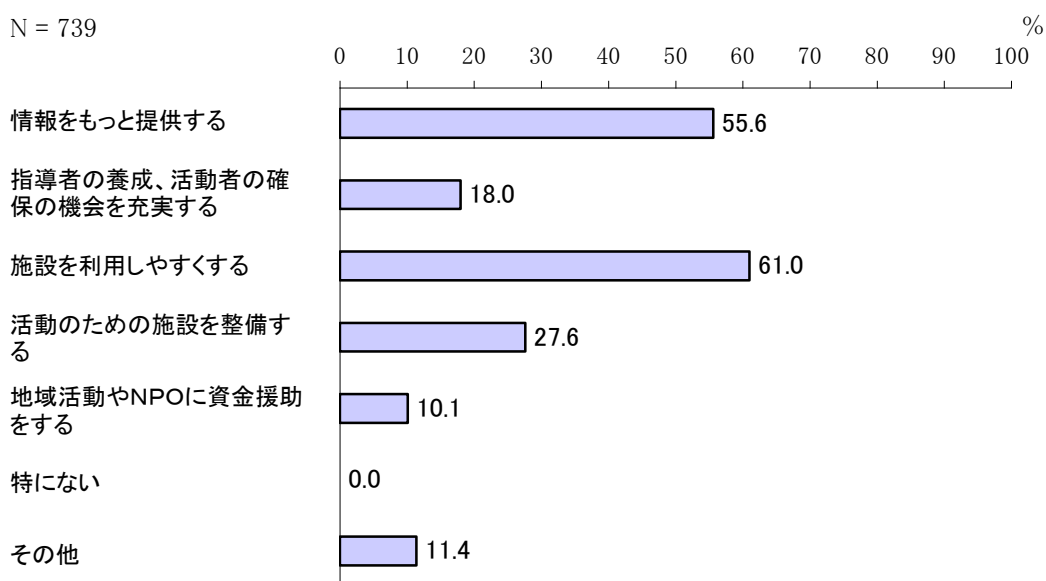
問 22. 今回の調査結果を参考にして豊橋市が行政サービスを行う場合、あなたはどのようなことを期待しますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 施設の利用のしやすさや整備を期待しており、施設利用を希望している人が多い。
- 情報提供を希望している割合も高く、情報が不足していることが窺える。

(上位回答)

- ・ 「施設を利用しやすくする」(61.0%)
- ・ 「情報をもっと提供する」(55.6%)
- ・ 「活動のための施設を整備する」(27.6%)

N = 739



【その他の内訳】

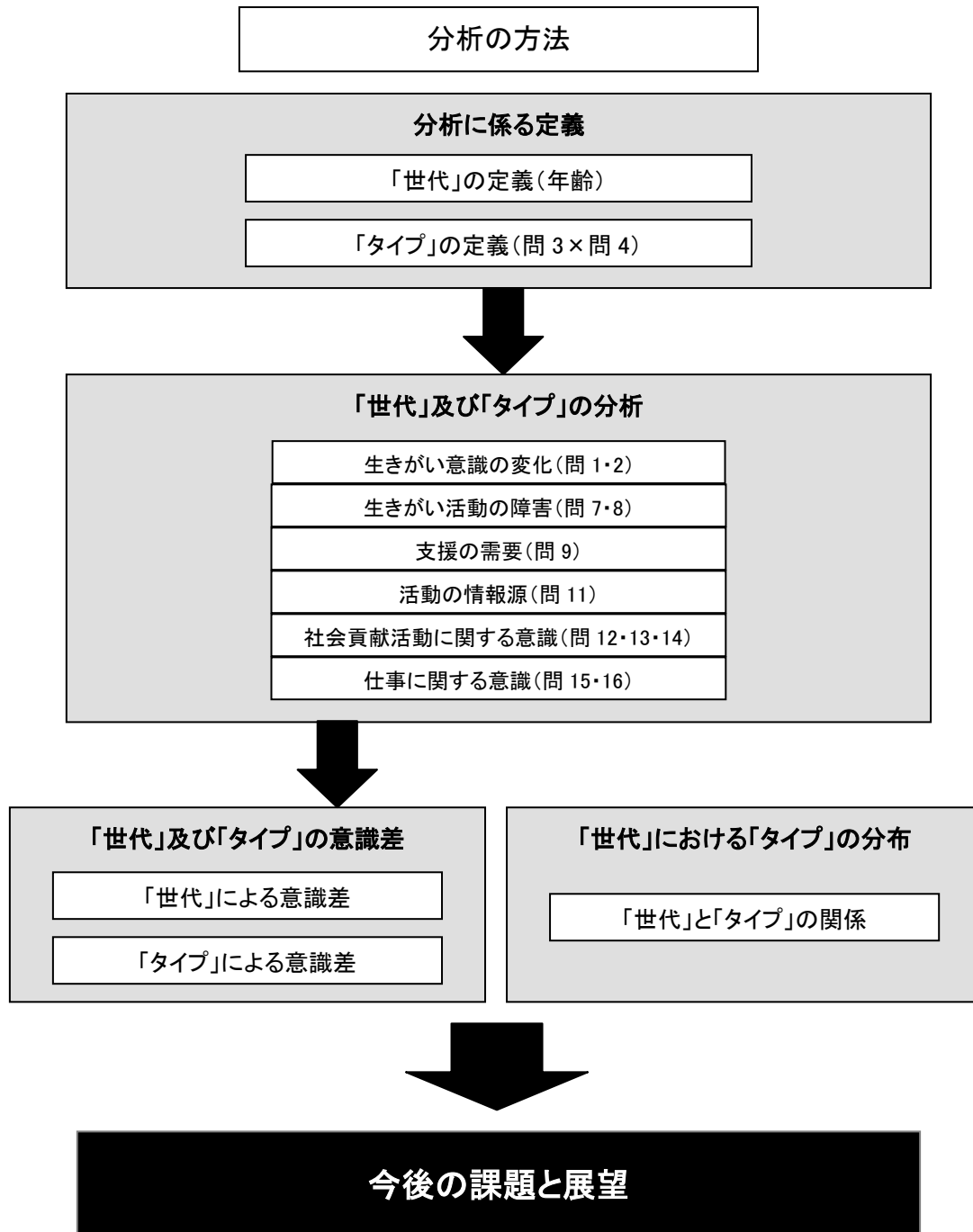
(上位回答)

- ・ 情報の公開・広報・ホームページ等について (38件)
- ・ 講座・催し物・イベント・サークルについて (17件)
- ・ 現在ある施設・設備等に対する希望 (16件)

### Ⅲ 調査結果の分析

アンケート調査結果より、

- (1) 世代間の意識差
  - (2) 行動・思考パターンより分類したタイプ別の意識差
- の二つの側面からシニア像を把握するとともに、各世代・タイプの意識差と関係を探り、今後の課題と展望の検討を行う。

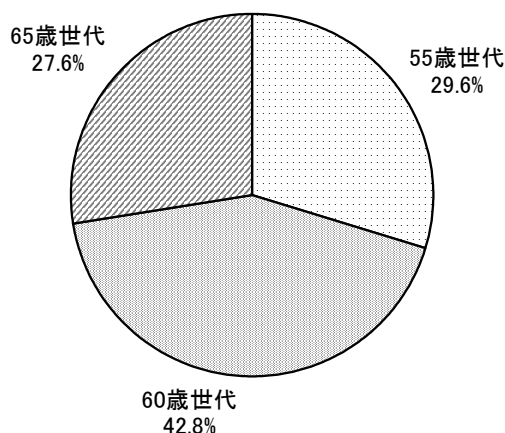


# 1 分析の方法

## (1) 世代の定義

年齢を以下の3つの区分に分類する。

区分	年齢層	構成比率
55歳世代	55～59歳	29.6%
60歳世代	60～64歳	42.8%
65歳世代	65～69歳	27.6%



## (2) 行動・思考パターンによる分類の定義

行動・思考パターンによる意識差を分析するため、以下の①～③の手順で分類する。

- ① 問3「多くの人と関わりがあるかどうか（社会性）」と問4「積極的に行動するかどうか（積極性）」の回答者について、(i) (ii) によりそれぞれ3種類に分類する。
- ② 分類したものを、クロスさせて9つにグループ化する。
- ③ 9つにグループ化したものを、それぞれタイプ1～タイプ9とした。

(i) 問3の回答項目を社会性により、以下の3種類に分類する。

社会性	分類区分	問3の回答項目
	団体やグループで活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体や組織（会社、地域団体、老人クラブなど）で活動している</li> <li>・グループ（趣味のグループやサークルなど）で活動している</li> </ul>
	ごく親しい範囲の人と活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の友人と活動している</li> <li>・家族・親戚と活動している</li> </ul>
	ひとりで活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりで活動することが多い</li> </ul>

(ii) 問4の回答項目を積極性により、以下の3種類に分類する。

積極性	分類区分	問4の回答項目
	自分から行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で情報を探し、計画を立てて行動する</li> <li>・情報の提供があれば、自分から行動する</li> </ul>
	誘われれば行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味があることであれば、人から誘われれば行動する</li> <li>・興味がなくとも、人から誘われれば行動する</li> </ul>
	誘われても、行動することは少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人から誘われても、行動することは少ない</li> </ul>

今回の調査では、前回調査に比べてタイプ3、6の「ひとりで活動」が大幅に減少した。逆にタイプ7、8の「誘われても、行動することは少ない」が増加している。

### 【行動・思考パターンによる集計結果】

		← 社会的		個人的 →	
	問3 社会性	団体やグループで活動	ごく親しい範囲の人と活動	ひとりで活動	
	問4 積極性				
	自分から行動する	<b>タイプ1</b> (14.1%)	<b>タイプ2</b> (10.3%)	<b>タイプ3</b> (0.5%)	
	誘われれば行動する	<b>タイプ4</b> (23.9%)	<b>タイプ5</b> (26.0%)	<b>タイプ6</b> (2.7%)	
	誘われても、行動することは少ない	<b>タイプ7</b> (12.6%)	<b>タイプ8</b> (6.9%)	<b>タイプ9</b> (3.0%)	

※本報告書では、タイプ3、6、9の各回答者が全体の0.5～3.0%と少数であり、分析に必要な標本数に不足を生じたため、タイプ1、2、4、5、7、8のみを分析対象とした。

## 2 世代及びタイプの分析結果

生きがい意識の変化（問1・2）、生きがい活動の障害（問7・8）、支援の支援需要（問9）、活動の情報源（問11）について、世代別、タイプ別に分析した。また、社会貢献等（問12・13）、仕事（問15・16）の分析は世代別のみ行った。

### （1）生きがい意識の変化

問1、問2「現在と5年後の楽しみ」を世代別、タイプ別に比較した。

#### 【世代別】

現在の楽しみ、生きがいを感じるのは、全ての世代に共通して「テレビ、ラジオ」のような手軽で身近なものが多い。5年後は、55、60歳世代において今まで楽しみ、生きがいとしてきた手軽で身近なものから脱却し、「旅行、ドライブ」のような外出活動の割合が高い。また、65歳世代については、現在と5年後は変わらず、「テレビ、ラジオ」や「仲間とおしゃべり」が上位を占めている。

#### 【タイプ別】

全てのタイプに共通して、現在も5年後も「旅行、ドライブ」と「家族との団らん」「仲間とおしゃべり」への関心が高い。

5年後にすべてのタイプにおいて「ボランティア活動」や「趣味・教養」への関心が高くなる。また、趣味・教養に対する関心はタイプ1、2、4、5、7が高くなる。

生きがい意識の変化

【世代別】

区 分	生きがい意識			
	現 在		5 年後	
	項 目	回答率(%)	項 目	回答率(%)
55 歳世代	テレビ、ラジオ	70.9	旅行、ドライブ	70.3
	仲間とおしゃべり	63.1	家族との団らん	63.8
	食事・飲食	60.2	テレビ、ラジオ	63.6
60 歳世代	テレビ、ラジオ	68.6	旅行、ドライブ	67.9
	食事・飲食	63.6	テレビ、ラジオ	65.0
	旅行、ドライブ	62.8	仲間とおしゃべり	63.6
65 歳世代	テレビ、ラジオ	71.6	テレビ、ラジオ	65.9
	仲間とおしゃべり	65.4	仲間とおしゃべり	65.9
	新聞、雑誌	64.2	家族との団らん	62.1

【タイプ別】

タイプ	現 在／人気が高い項目	回答率	伸び率	現 在／人気が低い項目	回答率	伸び率	現 在／人気が高い項目	回答率	伸び率
	5 年後／人気が高い項目	(%)	(倍)	5 年後／人気が低い項目	(%)	(倍)	5 年後／人気が低い項目	(%)	(倍)
1	家族との団らん	59.0	1.1	教養講座の受講	19.4	1.5	食事、飲食	59.7	0.9
	旅行、ドライブ	66.2	1.1	芸術・創作活動	29.5	1.3	新聞、雑誌	55.4	0.8
	仲間とおしゃべり	77.7	1.0	ボランティア活動	30.2	1.3			
2	家族との団らん	55.9	1.2	伝統文化の維持・保存	2.0	2.0	テレビ、ラジオ	68.6	0.9
	仲間とおしゃべり	58.8	1.0	ボランティア活動	17.6	1.5	新聞、雑誌	53.9	0.9
	旅行、ドライブ	74.5	1.0	教養講座の受講	12.7	1.2			
4	家族との団らん	63.1	1.1	ボランティア活動	5.9	3.4	新聞、雑誌	56.4	0.9
	旅行、ドライブ	74.2	1.1	伝統文化の維持・保存	2.5	1.8	テレビ、ラジオ	69.5	0.9
	仲間とおしゃべり	65.3	1.0	教養講座の受講	13.6	1.7	買物	41.9	0.8
5	旅行、ドライブ	62.3	1.1	教養講座の受講	4.3	2.5	テレビ、ラジオ	75.5	0.9
	家族との団らん	62.6	1.0	ボランティア活動	5.4	2.2	新聞、雑誌	56.4	0.9
	仲間とおしゃべり	68.5	1.0	伝統文化の維持・保存	0.8	2.0			
7	仲間とおしゃべり	40.0	1.1	ボランティア活動	8.8	2.6	新聞、雑誌	50.4	0.9
	旅行、ドライブ	52.8	1.1	教養講座の受講	10.4	1.5	テレビ、ラジオ	63.2	0.9
	家族との団らん	50.0	1.0	伝統文化の維持・保存	3.2	1.5			
8	家族との団らん	50.0	1.1	ボランティア活動	1.5	9.0	テレビ、ラジオ	79.4	0.9
				芸術・創作活動	7.4	1.8	新聞、雑誌	54.4	0.8
				歌、踊り	2.9	1.5	食事、飲食	58.8	0.8

※タイプ3、6、9の各回答者数が少数であり、分析に必要な標本数に不足を生じたため、タイプ1、2、4、5、7、8のみを分析対象とした。

## (2) 生きがい活動の障害

ア. 問7「生きがいを感じて生活していくために最も重要なこと」について世代別、タイプ別に比較した。

世代・タイプを問わず6割以上が重要視している「健康」以外のものに注目すると、以下のような傾向が見られる。

### 【世代別】

すべての世代で「金銭的余裕」を重要視する割合が高い。

(上位回答)

55歳世代		60歳世代		65歳世代	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
金銭的余裕	20.5	金銭的余裕	17.6	金銭的余裕	13.9
一緒に取り組む仲間	16.0	一緒に取り組む仲間	11.5	一緒に取り組む仲間	13.9
時間的余裕	4.2	活動に関する情報	2.1	時間的余裕	2.2

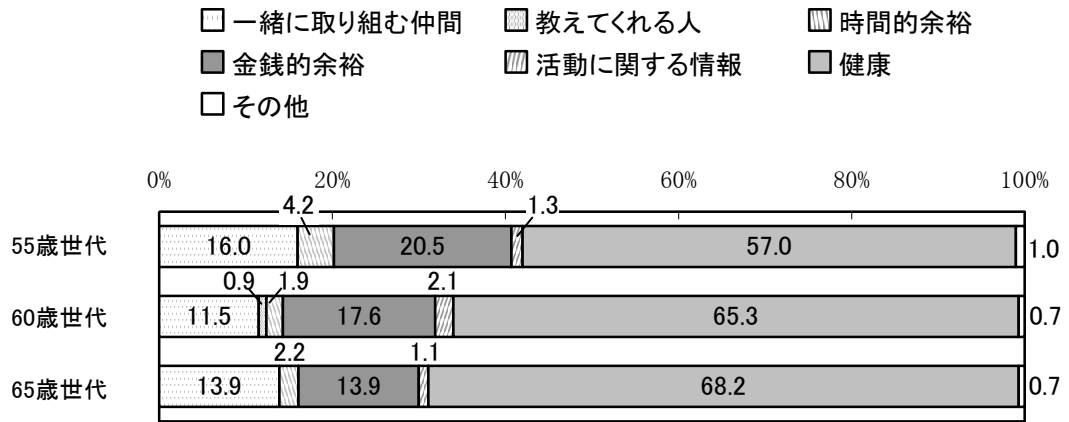
### 【タイプ別】

積極的なタイプ1、2で、一緒に取り組む仲間を重要視する割合が高いが、タイプ4、5、7、8のように消極的なタイプになると、金銭的余裕を重要視する割合が高い。

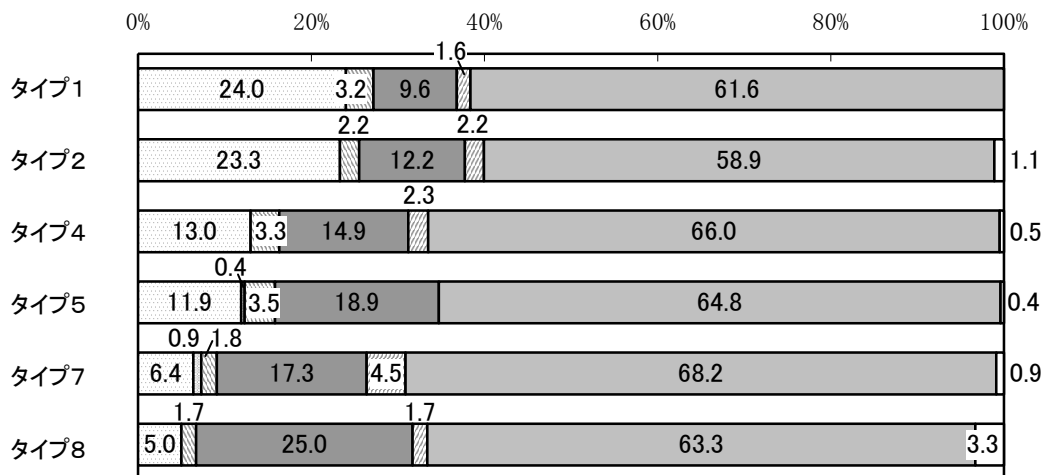
(上位回答)

タイプ1		タイプ2		タイプ4	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
一緒に取り組む仲間	24.0	一緒に取り組む仲間	23.3	金銭的余裕	14.9
金銭的余裕	9.6	金銭的余裕	12.2	一緒に取り組む仲間	13.0
時間的余裕	3.2	時間的余裕	2.2	時間的余裕	3.3
タイプ5		タイプ7		タイプ8	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
金銭的余裕	18.9	金銭的余裕	17.3	金銭的余裕	25.0
一緒に取り組む仲間	11.9	一緒に取り組む仲間	6.4	一緒に取り組む仲間	5.0
時間的余裕	3.5	活動に関する情報	4.5	時間的余裕	1.7

問7 生きがい活動に最も重要なこと（世代別）



問7 生きがい活動に最も重要なこと（タイプ別）



イ. 問8「次のことに対してどのくらい自信がありますか」を世代別、タイプ別に比較した。

【世代別】

リーダーシップ、地域とのかかわり、社会に活かせる技術や知識について、全世代の約7割が「どちらかという自信がない」と回答しており、将来への不安や消極性が窺える。

友人・知人、健康管理、ストレス解消法については、全世代の6割以上が「どちらかという自信がある」と回答しており、自己の管理意識が高い。

前回調査と大きな差異はないが、全世代において情報収集ができる項目がやや増加している。



### 【タイプ別】

全項目について、概ねタイプ1からタイプ8へと移行するにつれて自信がある割合が低くなっており、やはり、積極性のある人は自信を持っている。

気軽に話せる友人の有無では、タイプ1、2、4、5の7割以上が「どちらか」というと自信がある」と回答しているのに対し、タイプ7、8はその割合が減少しており、さそわれても行動しない人は、自信がない。

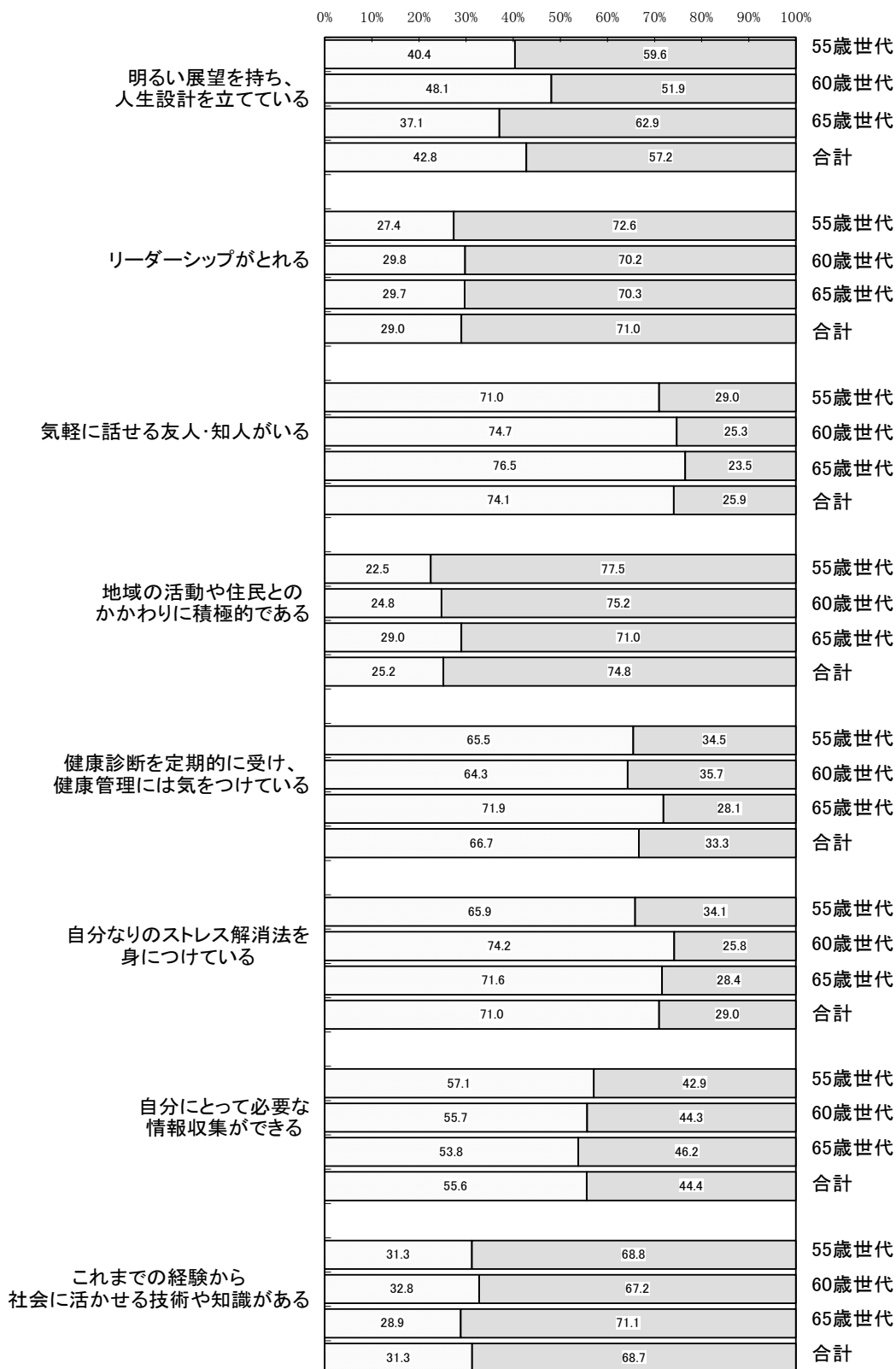
地域とのかかわりについては、タイプ1、2がほかのタイプに比べて高くなっており、自分から行動する人は、地域とのかかわりがある。

社会に活かせる技術や知識について、タイプ1が5割以上に対し、積極的に活動する人は、自らの知識、技術に自信をもっている。

前回調査と比べ、人生設計、リーダーシップ、情報収集、社会に活かせる技術や知識においてタイプ1がやや増加している。

問 8 次のことに対してどのくらい自信がありますか（世代別）

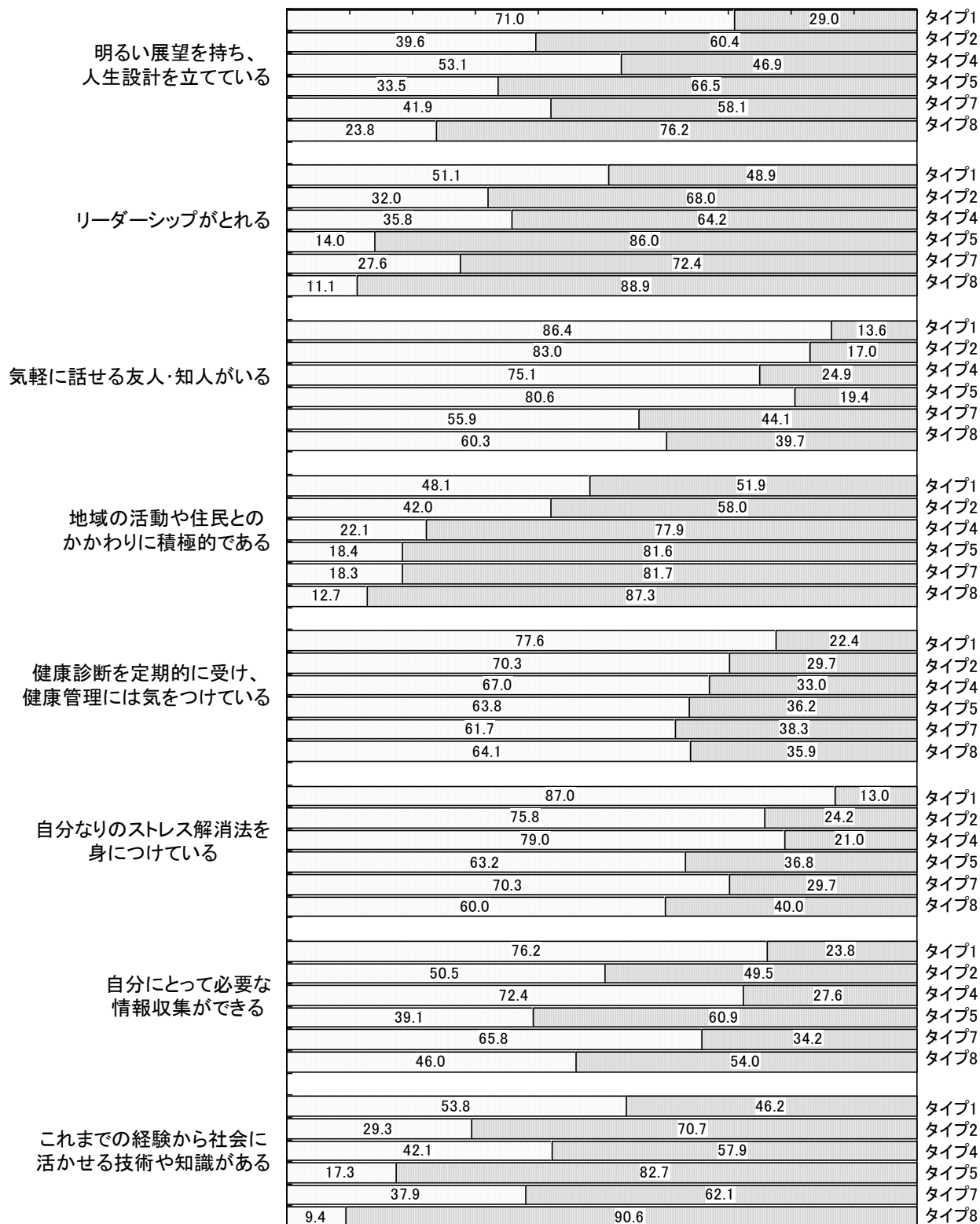
【平成 23 年度調査】  どちらかという自信がある  どちらかという自信がない



問8 次のことに対してどのくらい自信がありますか（タイプ別）

【平成23年度調査】 □ どちらかという自信がある      ■ どちらかという自信がない

0%    10%    20%    30%    40%    50%    60%    70%    80%    90%    100%

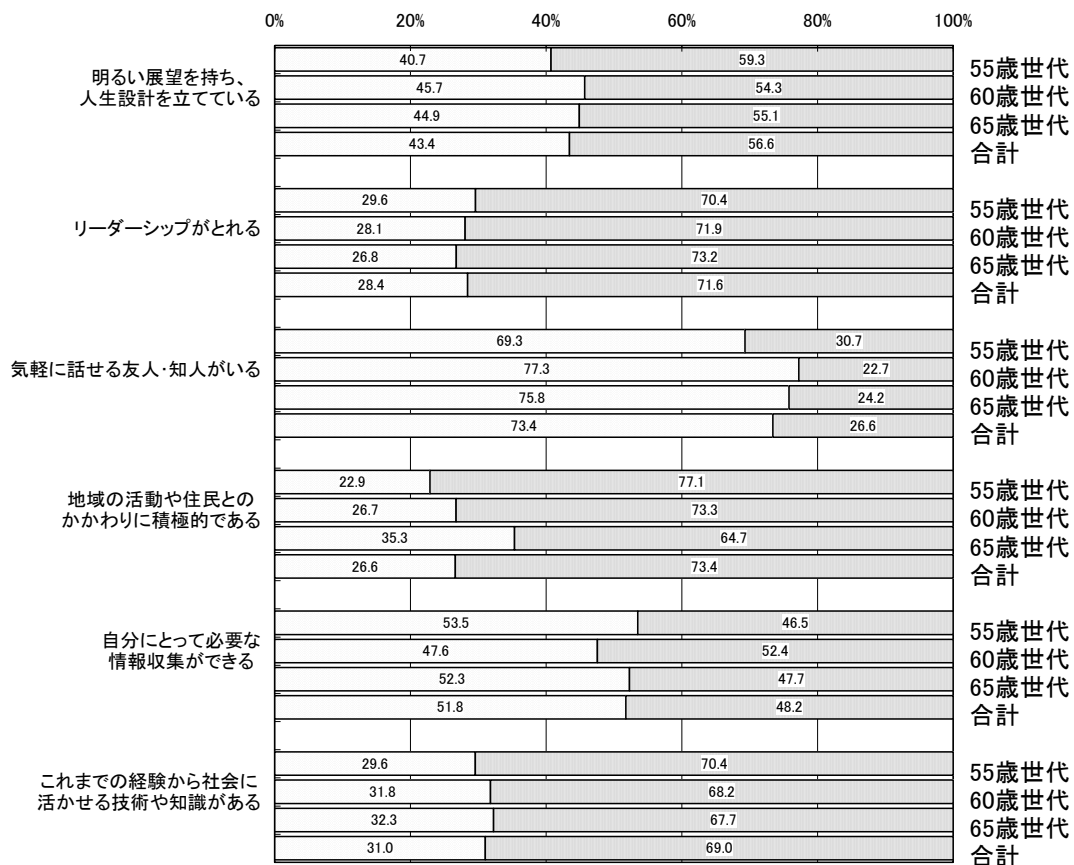


問 8 次のことに対してどのくらい自信がありますか（世代別）

【平成 18 年度調査】

□ どちらかという自信がある

■ どちらかという自信がない

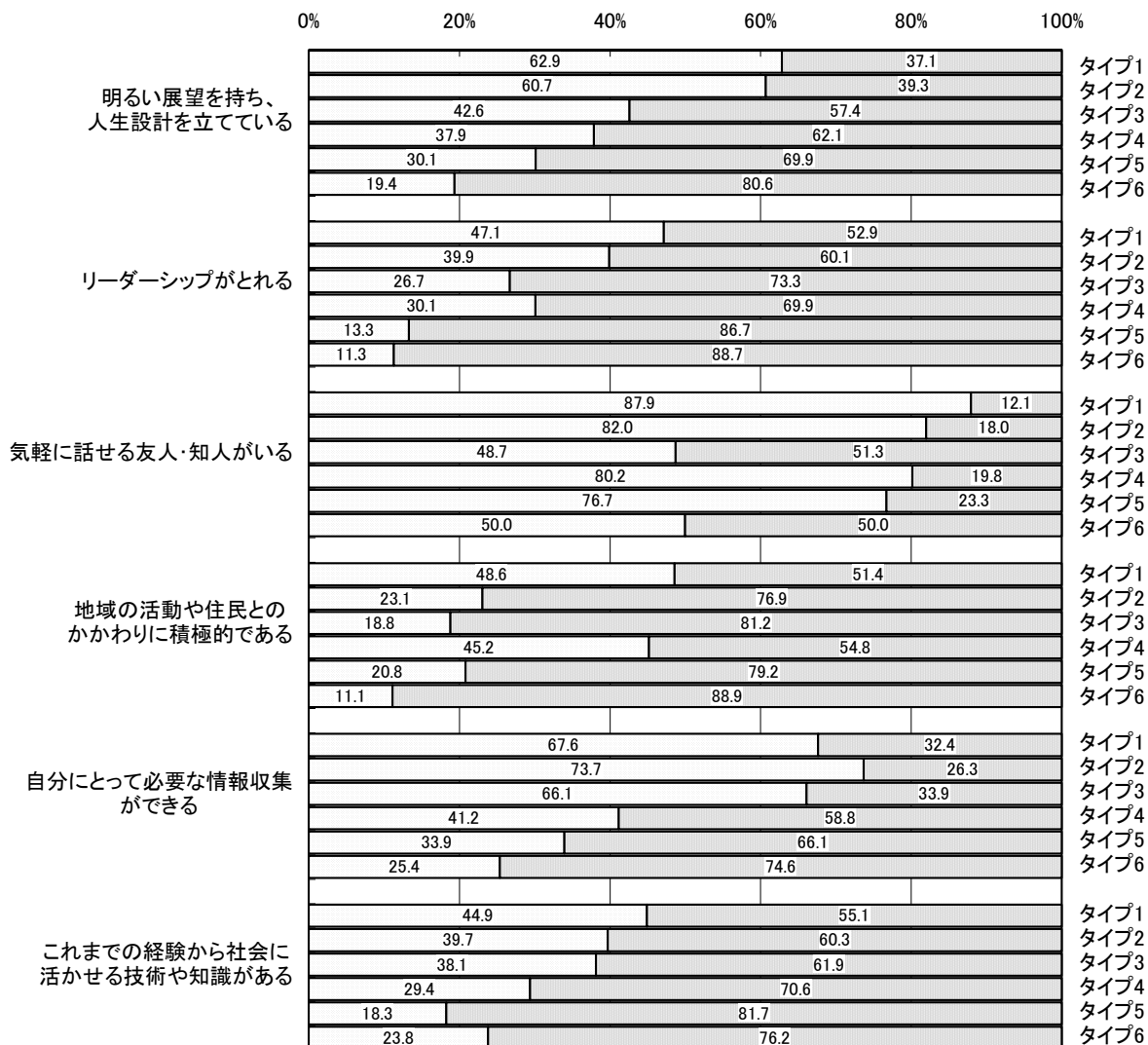


問8 次のことに対してどのくらい自信がありますか（タイプ別）

【平成18年度調査】

どちらかという自信がある

どちらかという自信がない



### (3) 支援の需要

問9「生きがいを見出すための支援策や講習」を世代別、タイプ別に比較し、生きがい活動の支援需要を把握した。

「健康づくりに関する講習会やセミナー」、「各種趣味実技に関する講座」、「ウォーキングや山歩き等の軽スポーツイベント」は全ての世代・タイプで活用すると答えた割合が高い。

#### 【世代別】

「有料でも活用する」「無料であれば活用する」を回答したもので世代間に最も差がある項目は「就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練」であり、55歳世代の約6割が活用すると答えているのに対し、65歳世代は約3割にとどまっている。

55歳世代で、「能力開発に関する情報提供やセミナー」「生活設計や資産形成の計画に関する情報提供やセミナー」「NPOやボランティア活動の情報提供セミナー」と答えた割合が他の世代より高く、就業やボランティアに関するニーズの高さが窺える。

また前回調査と比べ、55歳世代で「就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練」「能力開発に関する情報提供やセミナー」の割合が増え、就業に関して意識が向上している。

#### 【タイプ別】

「有料でも活用する」「無料であれば活用する」と答えた割合がタイプ1、4、7が他に比べて高い傾向にある。

「就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練」ではタイプ4が最も高くなっている。

「インターネット・パソコン講座」と答えた割合はタイプ7が最も高くなっている。

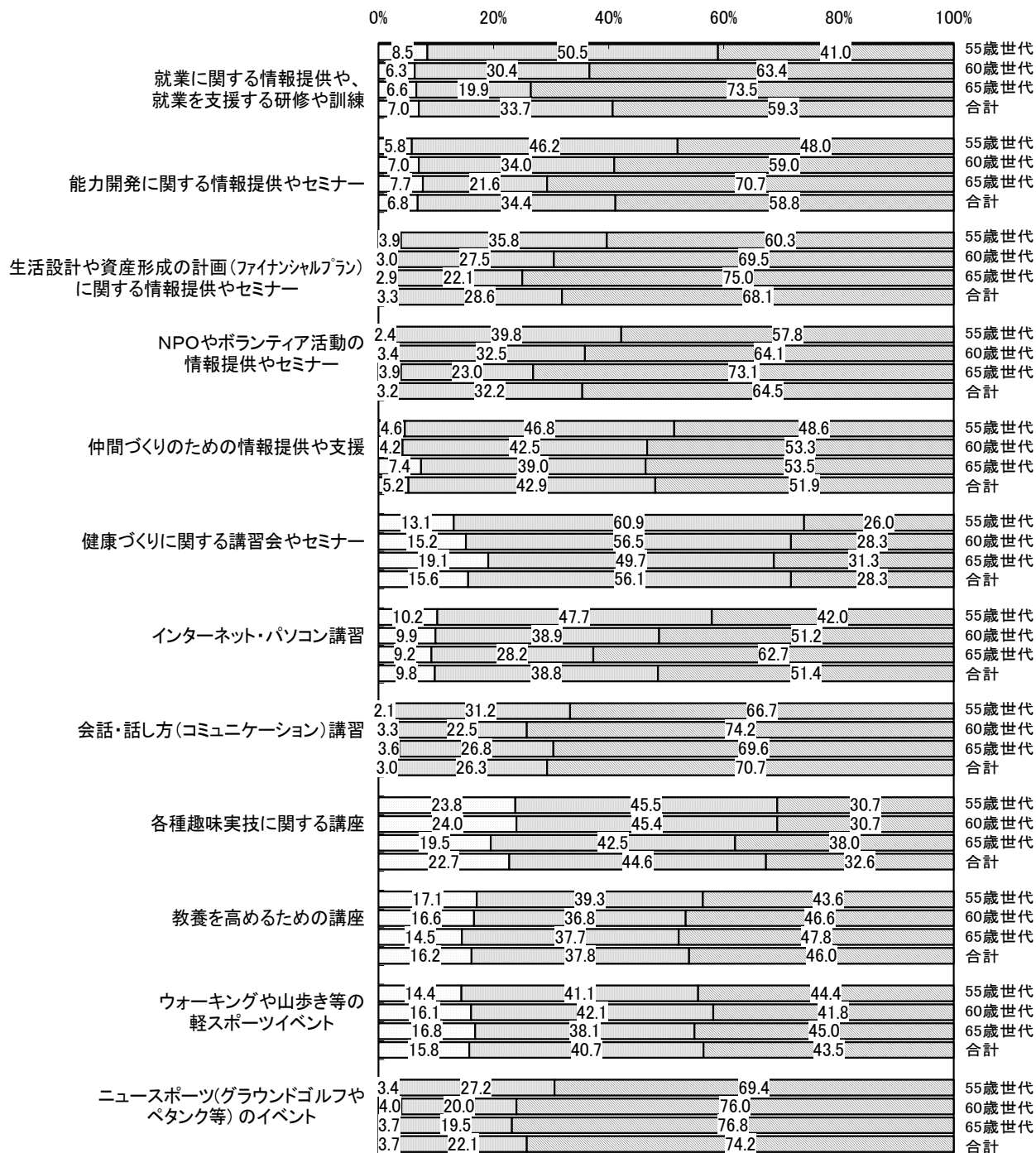
タイプ5、8は全項目で「活用しない」と回答している割合が多いが、その中でも、健康や各種趣味を気にかけていることが窺え、「活用する」割合が高くなっている。

前回調査と比べ、タイプ1ではほとんどの項目で「活用する」と回答した割合が増加しており、生きがい活動への意識の高さが窺える。

## 問9 生きがいを見出すための支援策や講習（世代別）

【平成23年度調査】

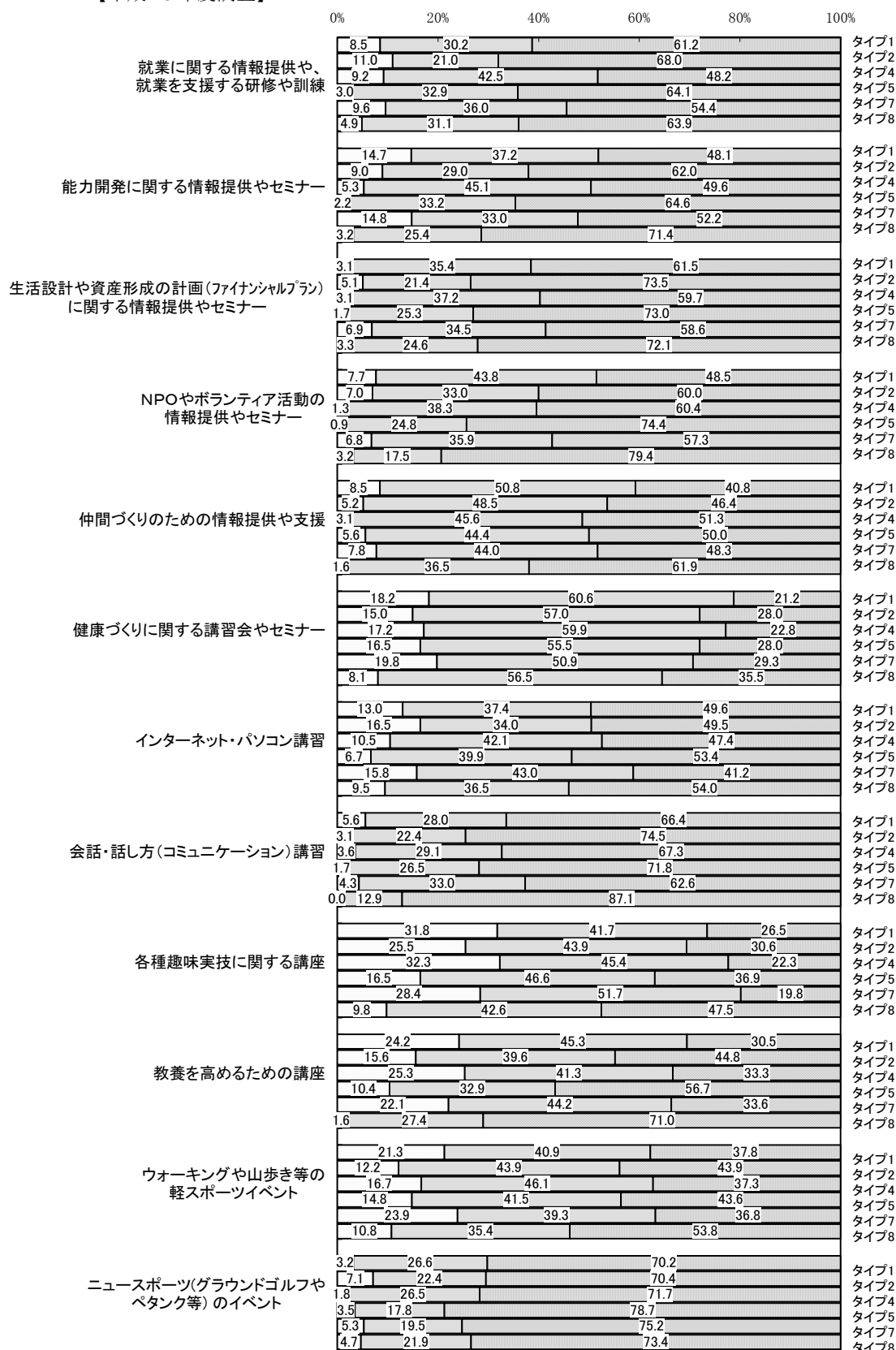
□ 有料でも活用する □ 無料であれば活用する ▨ 活用しない



## 問9 生きがいを見出すための支援策や講習（タイプ別）

【平成23年度調査】

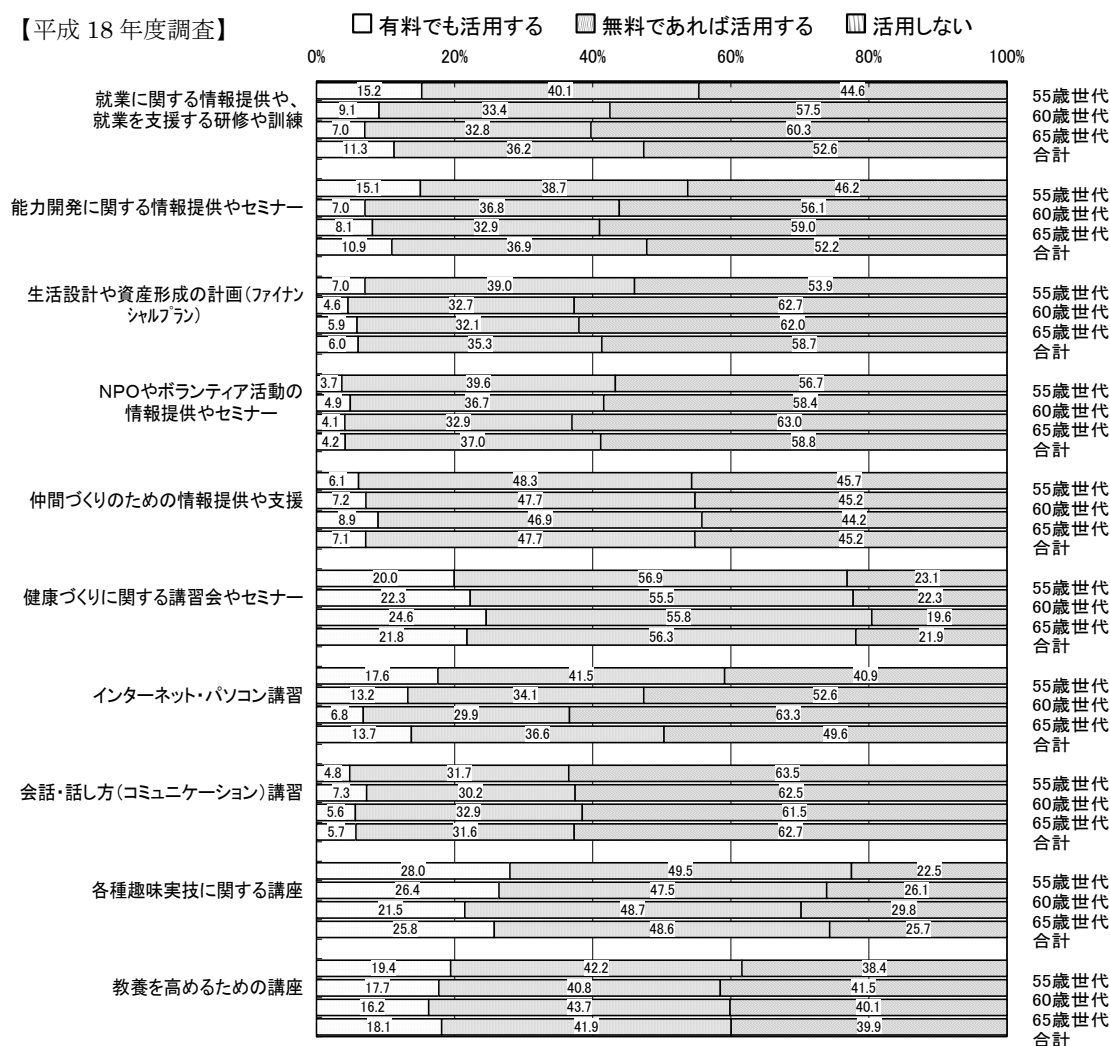
□ 有料でも活用する □ 無料であれば活用する □ 活用しない





## 問9 生きがいを見出すための支援策や講習（世代別）

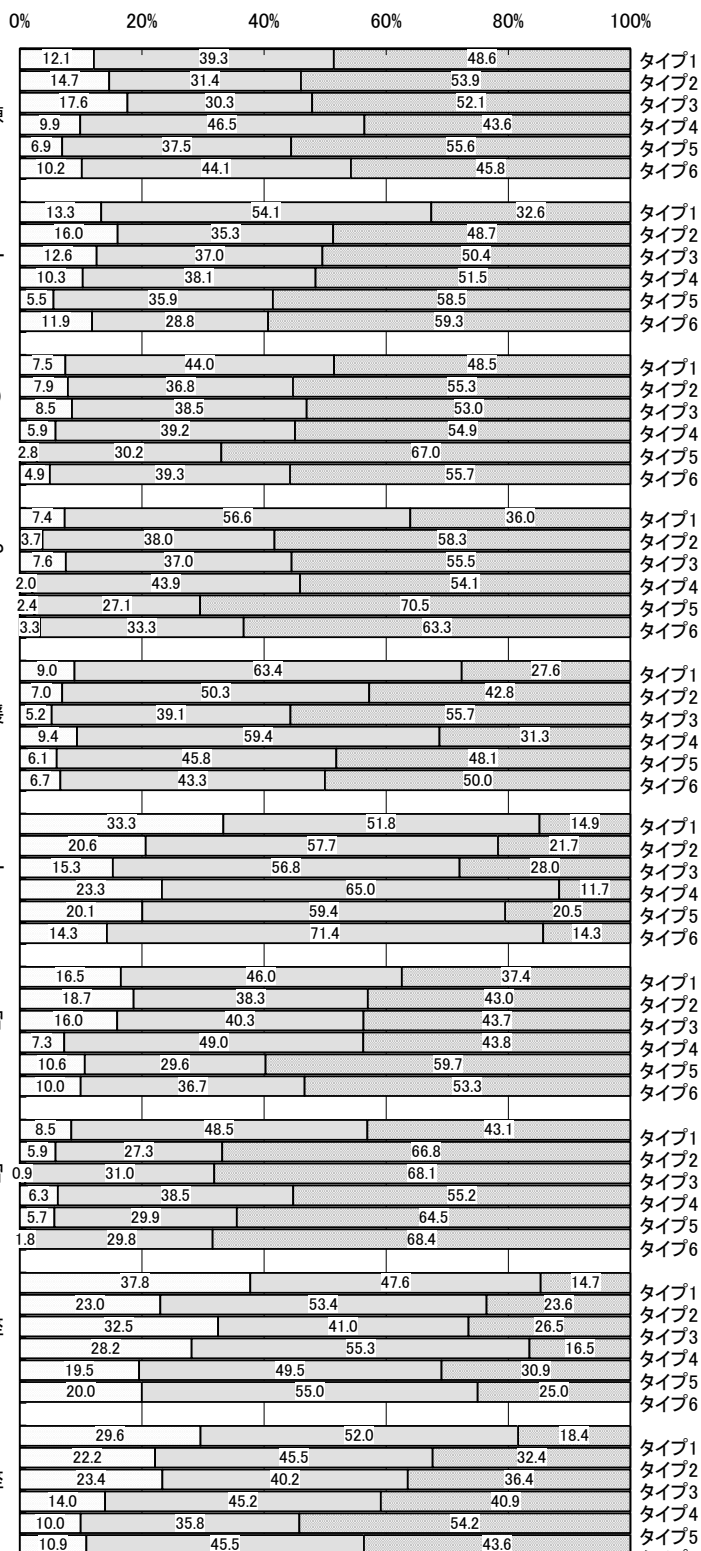
【平成18年度調査】



## 問9 生きがいを見出すための支援策や講習（タイプ別）

【平成18年度調査】

□ 有料でも活用する    ▨ 無料であれば活用する    ▩ 活用しない



#### (4) 活動の情報源

問 11「普段利用する主な情報源」を世代別、タイプ別に比較し、生きがい活動の情報源を把握した。

全体としてはテレビ、新聞が情報源として多く利用されており、それ以外の情報源に着目すると以下のような傾向が見られる。

##### 【世代別】

すべての項目、どの世代も同じような割合であるが、「インターネット」は世代が上がるほど少なく、一方、「広報とよはし」は世代が上がるほど利用する傾向がある。

前回調査と比べ、全世代で「インターネット」の割合が増加しており、インターネットを利用して情報を提供する方法が重要になっていることが窺える。

##### 【タイプ別】

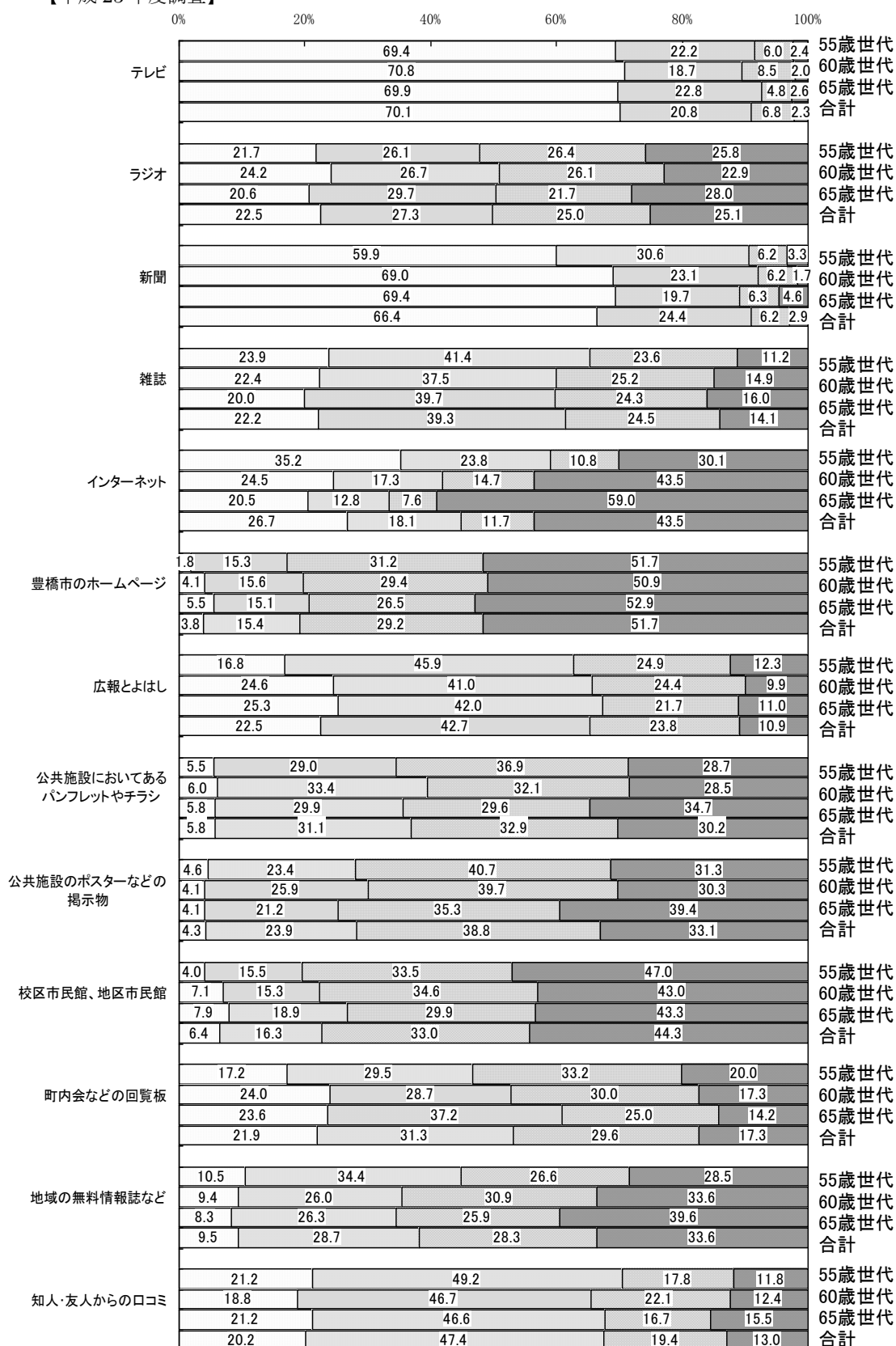
タイプ 1、4、7 は他のタイプに比べて「インターネット」の利用率が高く、団体やグループで活動していることが多い場合「インターネット」を情報源として活用する割合が高いことが窺える。

「校区市民館、地区市民館」ではタイプ 1 の割合が多い。

前回調査と比べ、「インターネット」の利用率は増加しているが、「広報とよはし」の利用率も依然として高く、情報源が多様化している。

## 問 11 普段利用する主な情報源（世代別）

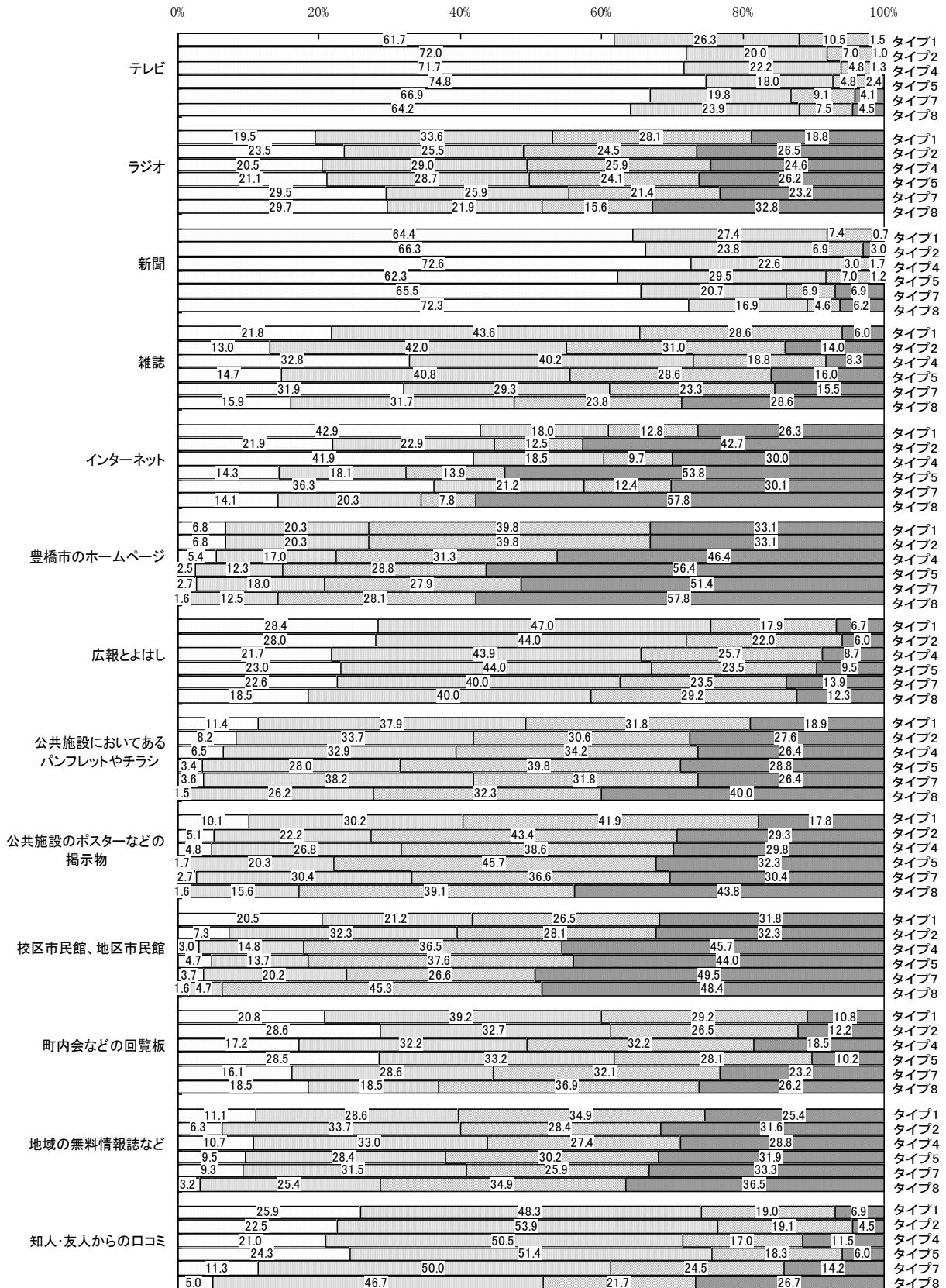
【平成 23 年度調査】 □ よく利用する □ たまに利用する □ あまり利用しない □ 全く利用しない



# 問 11 普段利用する主な情報源（タイプ別）

【平成 23 年度調査】

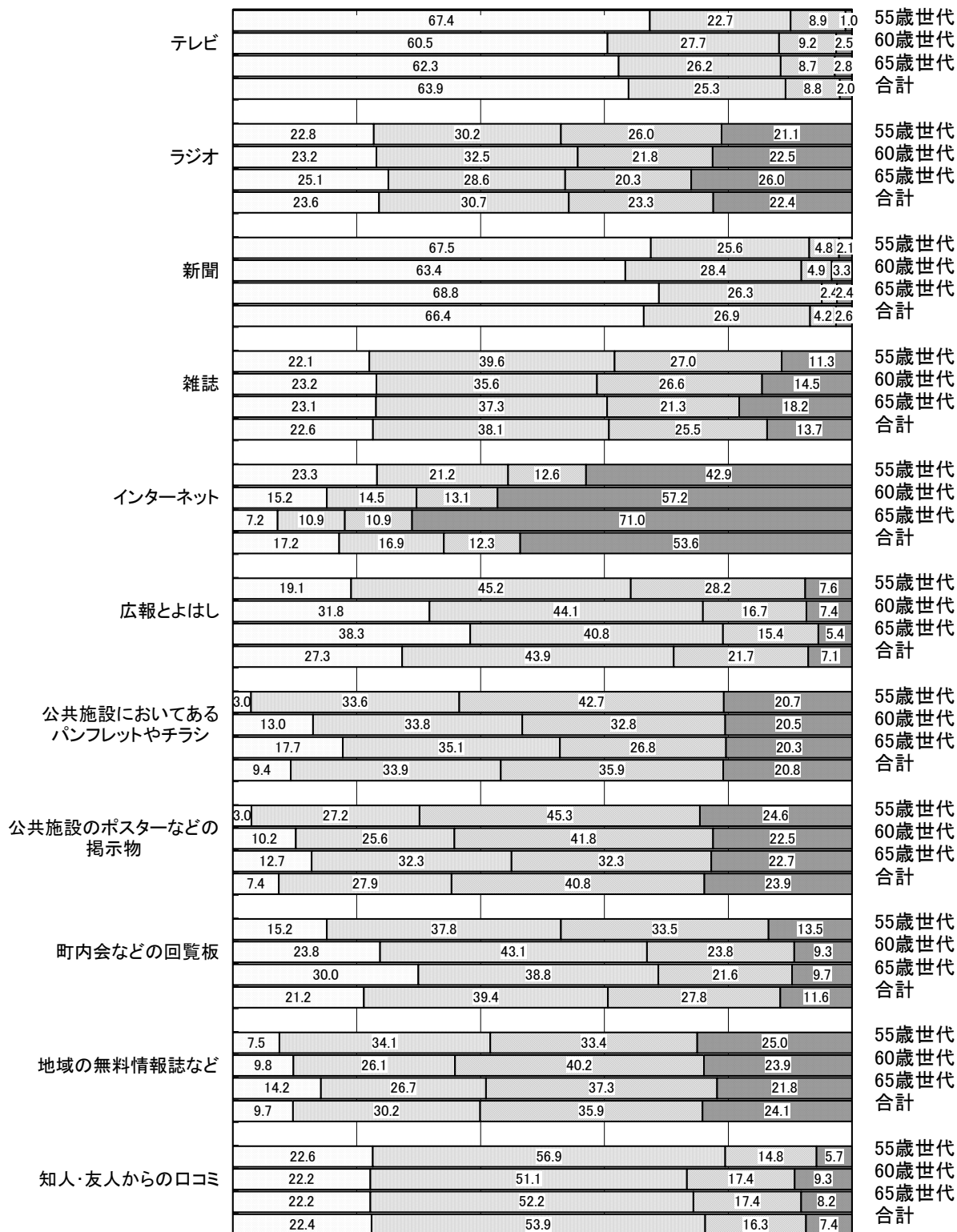
□ よく利用する    ▨ たまに利用する    ▩ あまり利用しない    ■ 全く利用しない



## 問 11 普段利用する主な情報源（世代別）

【平成 18 年度調査】 □ よく利用する    ▨ たまに利用する    ▩ あまり利用しない    ■ 全く利用しない

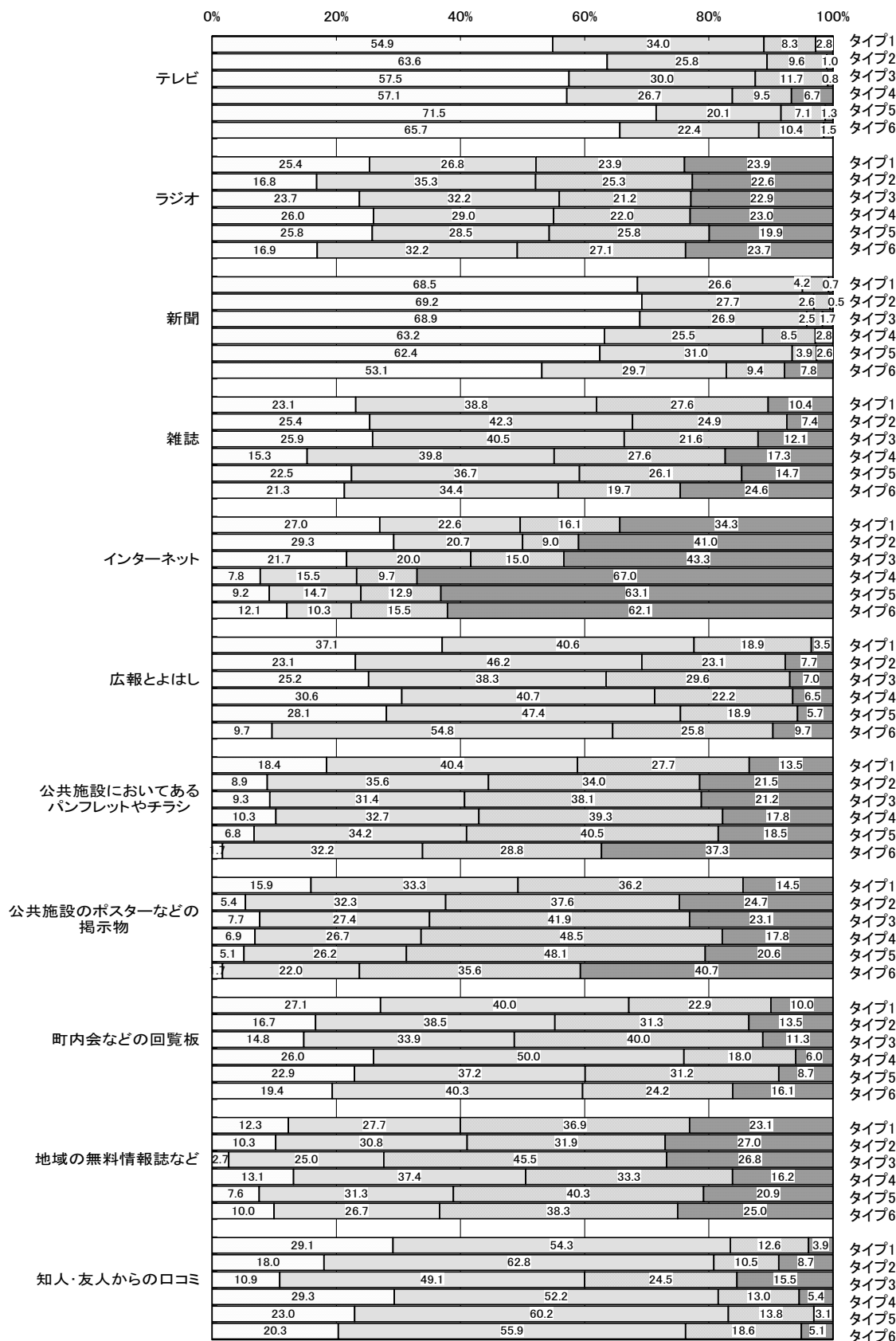
0%                      20%                      40%                      60%                      80%                      100%



# 問 11 普段利用する主な情報源（タイプ別）

【平成 18 年度調査】

□ よく利用する    ▨ たまに利用する    ▩ あまり利用しない    ■ 全く利用しない



## (5) 社会貢献活動に関する意識差【世代別のみ】

問 12～14 よりボランティアや地域活動等、社会貢献活動への取り組みについて、各世代でどのような意識差があるか把握するため、参加意識と報酬、活動分野等に対する意識について比較した。

社会貢献活動については、65 歳世代が実際に参加している割合が最も高くなっている。60 歳世代は参加している割合は少ないものの、参加した割合が他の世代に比べ高くなっている。

社会貢献活動に対する報酬等については、全世代を通して必要経費を求める意見が過半数を越えており、無報酬で構わないという傾向は世代が上がるにつれて高くなる。

社会貢献活動について、参加したい活動分野はリサイクルやまちづくり活動が上位を占めている。また、世代が上がるにつれて、防犯や安全のまちづくりに参加したい割合が高くなる。

### 問 12. 社会貢献活動について

項 目		回答率(%)		
		55 歳世代	60 歳世代	65 歳世代
参加中		10.5	6.7	11.8
参加したい	機会・情報があれば	28.2	28.3	18.5
	仲間がいれば	19.2	20.9	18.8
参加したくない	必要性は感じる	32.0	35.2	42.0
	関心がない	10.2	8.9	8.9

### 問 13. 社会貢献活動をする場合の報酬等について

項 目		回答率(%)		
		55 歳世代	60 歳世代	65 歳世代
無報酬でよい		38.3	40.2	46.5
対価が必要	必要経費は支払われるべき	54.0	53.8	50.0
	日当、謝礼は支払われるべき	6.2	5.4	3.5
	給与として支払われるべき	1.5	0.6	—



問 14. 社会貢献活動をする場合の参加したい活動分野・領域について

55歳世代		60歳世代		65歳世代	
項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
リサイクルや環境活動	32.8	地域のまちづくり活動	33.9	地域防犯、安全等のまちづくり活動	36.8
地域のまちづくり活動	28.2	リサイクルや環境活動	31.2	地域のまちづくり活動	32.3
文化・芸術に関わる活動	28.2	地域防犯、安全等のまちづくり活動	31.0	リサイクルや環境活動	28.2

(上位回答)

(6) 仕事に関する意識差【世代別のみ】

問 15、問 16 より仕事への取り組みについて、55歳世代とその他世代ではどのような意識差があるか把握するため、5年後の仕事への取り組みとその理由について比較した。

5年後の仕事については、世代が上がるにつれて仕事意欲は徐々に低下するが、労働日数や労働時間の短い仕事の需要は年齢が高い世代でも減少しない。

仕事をする理由では「生きがい」はどの世代でも割合が高くなっている。「収入を得るため」は世代が上がるにつれて減少している。65歳世代では「働けないため」が高くなっているが、「生きがい」や「健康」も仕事に求めている。

問 15. 5年後の仕事

順位	55歳世代		60歳世代		65歳世代	
	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)	項目	回答率(%)
1	パートタイム週数回	34.4	パートタイム週数回	32.2	働きたいと思わない	37.1
2	フルタイム(常勤)	22.1	働きたいと思わない	29.4	パートタイム週数回	20.8
3	働きたいと思わない	16.5	月数回、単発	14.7	月数回、単発	18.5
4	パートタイム毎日	12.9	フルタイム(常勤)	10.8	その他	11.2
5	月数回、単発	10.6	パートタイム毎日	7.1	フルタイム(常勤)	6.4

問 16. 5 年後に仕事をする理由

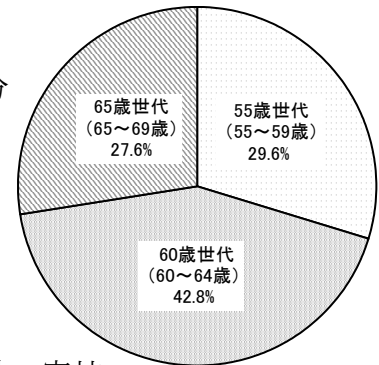
順位	55 歳世代		60 歳世代		65 歳世代	
	項 目	回答率(%)	項 目	回答率(%)	項 目	回答率(%)
1	収入を得るため	42.0	楽しみや生きがいのため	30.7	働けない・ 働きたくないため	26.3
2	楽しみや生きがいのため	26.7	収入を得るため	22.2	楽しみや生きがいのため	25.3
3	健康のため	16.0	健康のため	19.0	健康のため	20.7
4	働けない・ 働きたくないため	9.2	働けない・ 働きたくないため	17.9	収入を得るため	16.1
5	その他	4.6	その他	7.6	その他	7.0

### 3 世代及びタイプの意識差

#### (1) 世代による意識差

今回の調査では、対象者全体を年齢により3世代に分けて分析した。

調査結果について世代による意識差を見た結果、分析される傾向は以下のとおりである。



#### ア. 全ての世代に共通する傾向

全ての世代に見られる傾向として、健康、教養、趣味・実技への関心が非常に高いことがあげられる。また、テレビ、新聞を通じて情報収集を行う頻度が非常に高い。

また、社会貢献活動については、「参加している」「何かきっかけがあれば参加したいと考えている」と回答した人は約半数であるが、必要経費は支払われるべきと感じる傾向がある。

#### イ. 年齢層が低い世代に傾向の強いもの

年齢層が低い世代ではパソコンやインターネットを使用し、情報収集手段の一つとして活用しており、就業や能力開発、資産形成、商売など、収入や金銭に結びつくものへ興味を持つ傾向がある。将来的に継続して長時間働きたいという回答の割合が高いことも特徴である。

#### ウ. 年齢層が高い世代に傾向の強いもの

年齢層が高い世代になるにつれて、「広報とよはし」の利用頻度が高いことや地域活動への参加頻度など、地域的な交流を求める傾向が見られる。就業などに対する興味は年齢が低い世代に比べ薄れているが、金銭以外を重要視する傾向が高い。

社会貢献活動については、参加したくないが必要性を感じている割合が高いため、今後、参加したい割合をどのように増やすかが課題である。

## (2) タイプによる意識差

今回の調査では、対象全体を社会性（多くの人と関わりがあるかどうか）と、積極性（積極的に行動するかどうか）の2つの側面から9つのタイプに類型化した。この中で全体の約94%を構成するタイプ1、2、4、5、7、8の調査結果について意識差を見た結果、分析される傾向は以下のとおりである。



### ア. 全てのタイプに共通する傾向

全てのタイプに見られる傾向として、教養、健康、趣味・実技への関心が非常に高いことがあげられる。また、テレビ、新聞を通じて情報収集を行う頻度が非常に高い。

しかしタイプ間でその度合いはやや異なり、団体・グループで活動するタイプは、就業や趣味・実技への関心の度合いが高い。

### イ. 積極性による傾向

積極的なタイプであるほど、仲間作りへの意識が高い傾向にあり、集団に属しているほど仲間意識が高まり明るい人生設計を立てている傾向にある。積極的なタイプはインターネットを情報源にしている割合が高く、新しい分野への関心が高いことがいえる。

### ウ. 社会性による傾向

社会的なタイプであるほど地域的なつながりが強くなり、ボランティアやスポーツ、教養を高めることに関心を持ち、普段の活動は仲間や家族と共に行うことが多い。

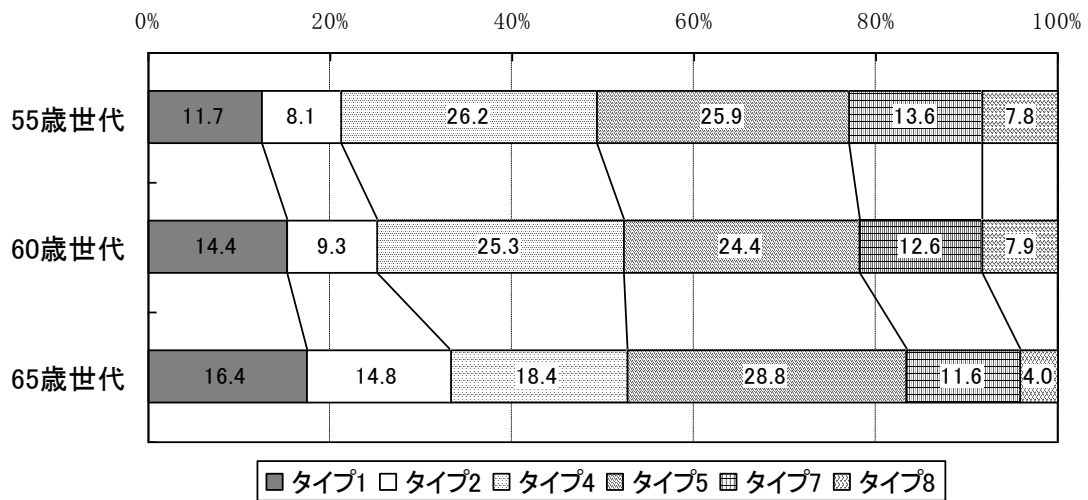
また、社会性が最も高いタイプ1、4、7では能力開発や、生活設計に対して高い関心を持つ傾向が見られる。社会性が高くても、活動に消極的タイプ4、5、7、8は、仲間を重視する傾向が見られる。

### エ. 積極性と社会性による傾向

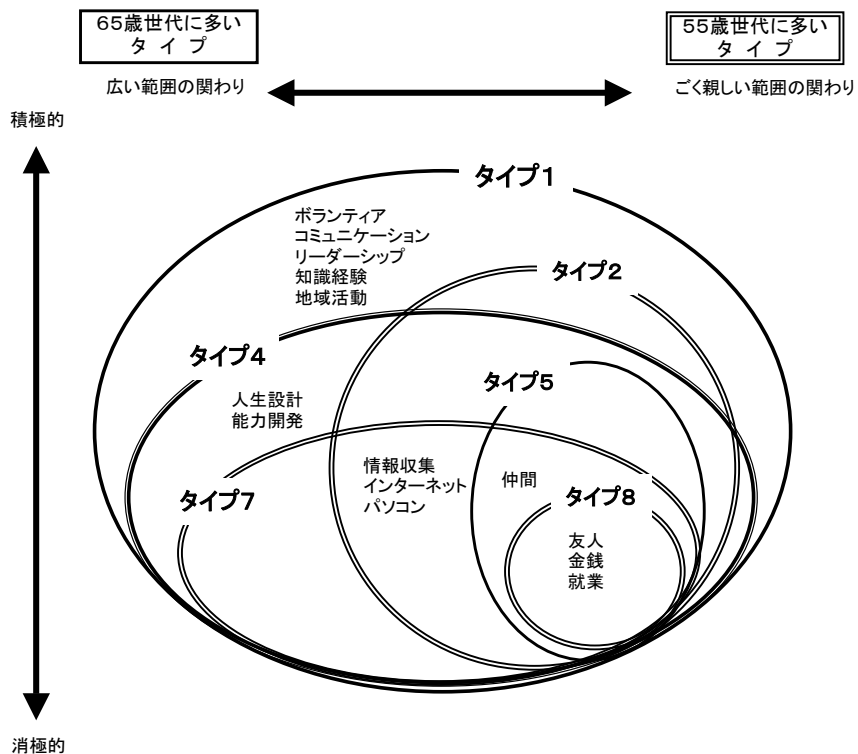
積極性と社会性の両面が高いほどリーダーシップに自信を持つ傾向が強まり、最もその特性が高いタイプ1では、就業や能力開発などの各種講座やセミナーに強い関心を示す傾向がある。また、全てのタイプと比較してもタイプ1がさまざまなことに対して意欲的である。

### (3) 世代とタイプの関係

世代ごとにタイプの分布を見ると、世代によってタイプの分布に特徴があることがわかる。世代が上がるにつれて行動が積極的になり、社会性も高く傾向にある。一方、世代が下がるにつれて行動が消極的になる人がやや増える反面、活動の社会性が高まり、多くの人との関わりを求める傾向がある。



また、世代・タイプとその傾向の相関イメージは次のとおりである。



活力ある高齢社会を実現するためには積極性と社会性両面を兼ね備えたアクティブシニアの存在が不可欠だと思われるが、現在の 55 歳世代が年齢を重ねたとき、いずれ現在の 65 歳世代と同じ意識・傾向をもつとは限らない。行政としてこれから時代の変化、時代のニーズにどう対応していくのかということが重要である。

## IV 今後の課題と展望

前章の分析結果は、社会性・積極性がともに高いタイプ1のアクティブシニアが、今後の活力ある高齢社会実現のために重要な存在であることを示した。その特性から、アクティブシニアの行動が同世代のシニアへ与える影響は大きく、彼らと協力しながらこれからの事業を推進していくことが重要である。

そのためには、より多くのアクティブシニアが社会で活動するための環境が必要であり、そのような環境の整備が今後行政の果たすべき役割と考えられる。

また、5年前の前回調査と比較した結果も踏まえ、今後の課題と展望について検討した。

### ■ 生きがいがづくり

アクティブシニアは自分のライフスタイルにこだわりを持っているため、生きがい活動へのニーズは多岐にわたっている。前回調査と比べて、「健康づくりに関する講習会やセミナー」、「各種趣味実技に関する講座」の活用が増えている。今後もシニアの目的やニーズに応じて、生き生きと活動でき、また、意欲的に活用を継続できる環境づくりを進めていくことが求められる。

### ■ 積極的な社会参加を促進するために

55歳世代及びアクティブシニアは、生きがい活動において「金銭」や「就業」に強い関心を示している。その理由として、55歳世代は昨今の社会情勢や景気の動向により経済的な面で将来に不安を抱えていることが窺える。

どの世代においても働くことが、「生きがい」と考える人が多くなっている。前回調査と比べ、55歳世代で「就業に関する情報提供や、就業を支援する研修や訓練」「能力開発に関する情報提供やセミナー」の割合が増え、また、「NPOやボランティア活動の情報提供セミナー」と答えた割合が他の世代より高く、就業やボランティアに関するニーズの高さが窺える。

そのような中で、就労機会の拡充やソーシャルビジネス（環境・地域活性化・少子高齢化・福祉・生涯教育など社会的課題への取り組みを、継続的な事業活動として進めていくこと）などを推進することにより、アクティブシニアの優れた知識や技能を活かせる場の充実が必要です。

## ■ コミュニティの活性化

様々な地域活動は、仲間とともに地域コミュニティを舞台に行われる。その中で人に喜んでもらうことや地域の役に立つことは、大きな生きがいとなる。

本調査の調査結果を踏まえ、アクティブシニアとなるためには、自己の資質や、生活の向上など個の確立を目指すものだけでなく、それを基盤として地域社会に参加し活発に活動することで、よりよい人間関係をつくりあげ、すべての人々が住みよいまちを築いていくことにも重要な役割を担っていくことが求められる。

## ■ 情報の共有

前回調査と同様「インターネット」は世代が上がるほど少なく、一方、「広報とよはし」などの紙媒体は世代が上がるほど利用する傾向がある。

また、前回調査と比べ、全世代で「インターネット」の割合が増加しており、インターネットを利用しての情報提供は今後有効なツールとなることが窺える。

情報提供はシニアの様々な活動のきっかけづくりとして重要なファクターであり、市民の多様なニーズに対応するため、広報、インターネットなど様々な媒体を活用しての情報提供の充実とともに、一方向の情報の提供だけでなく、シニアと行政が互いの情報を共有することも重要となる。その手法として、インターネットの活用があげられる。アンケートからは、世代が下がるにつれて、また、アクティブであるほどインターネットによる情報収集の需要が高いことが窺える。インターネットを活用することで、シニア同士の横のネットワーク構築が可能となり、さらにはシニアと行政の距離を縮めることが可能となる。



55歳からの楽しみや生きがいづくりに関する意識調査  
～アクティブシニアによる活力あるまちづくりに向けて～

報 告 書

平成 23 年 8 月

豊 橋 市